


「医薬品副作用被害救済制度に関する認知度調査」  
調査報告書  
＜＜一般国民＞＞

平成30年度調査分

 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部

# 目次（その1）

---

■調査概要	．．．．．	P 4
■対象者のプロフィール	．．．．．	P 5
■Summary	．．．．．	P 6
■調査結果	．．．．．	P 14
Q 1	医薬品副作用被害救済制度 認知率	P 15
Q 2	生物由来製品感染等被害救済制度 認知率	P 16
Q 3	医薬品副作用被害救済制度 内容認知（全体）	P 17
Q 3	医薬品副作用被害救済制度 内容認知（性・年代別）	P 18
Q 4	医薬品副作用被害救済制度 認知経路	P 19
Q 5	医薬品副作用被害救済制度 教えてもらった人	P 20
Q 6	テレビCMの認知率	P 21
Q 7	テレビCMの評価（全体）	P 22
Q 7	テレビCMの評価（性・年代別）	P 23
Q 8	救済制度紹介動画の認知率	P 24
Q 9	救済制度紹介動画の評価（全体）	P 25
Q 9	救済制度紹介動画の評価（性・年代別）	P 26
Q 10	新聞広告の認知率	P 27
Q 11	新聞広告の評価（全体）	P 28
Q 11	新聞広告の評価（性・年代別）	P 29
Q 12	薬局ビジョンや院内ビジョンの認知率	P 30
Q 13	薬局ビジョンや院内ビジョンの評価（全体）	P 31
Q 13	薬局ビジョンや院内ビジョンの評価（性・年代別）	P 32

## 目次（その2）

---

Q 1 4	救済制度特別サイトの認知率	P 3 3
Q 1 5	救済制度特別サイトの評価（全体）	P 3 4
Q 1 5	救済制度特別サイトの評価（性・年代別）	P 3 5
Q 1 6	医薬品副作用被害救済制度 関心度	P 3 6
Q 1 8	副作用の経験（本人）	P 3 7
Q 1 9	副作用で治療を受けた経験	P 3 8
Q 2 0	医薬品副作用被害救済制度を利用した経験	P 3 9
Q 2 1	医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由	P 4 0
Q 2 2	医薬品副作用被害救済制度 情報収集の方法	P 4 1
Q 2 3	医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向	P 4 2
Q 2 4	医薬品副作用被害救済制度 利用したくない理由	P 4 3
Q 2 5	制度周知方法	P 4 4
付録	調査票	P 4 5

# 調査概要

- ・ 調査目的 医薬品副作用被害救済制度の浸透度を把握し、今後の基礎資料とする
- ・ 調査対象 20歳以上の男女
- ・ 調査地域 全国
- ・ 調査方法 インターネット調査
- ・ 調査時期 平成30年度調査 平成30年12月21日(金)～平成30年12月28日(金)  
平成29年度調査 平成29年12月21日(木)～平成29年12月28日(木)
- ・ 有効回答数 3,000サンプル

		平成30年度	平成29年度
1	男性/20-29才	300	300
2	男性/30-39才	300	300
3	男性/40-49才	300	300
4	男性/50-59才	300	300
5	男性/60才以上	300	300
6	女性/20-29才	300	300
7	女性/30-39才	300	300
8	女性/40-49才	300	300
9	女性/50-59才	300	300
10	女性/60才以上	300	300
	全体	3,000	3,000

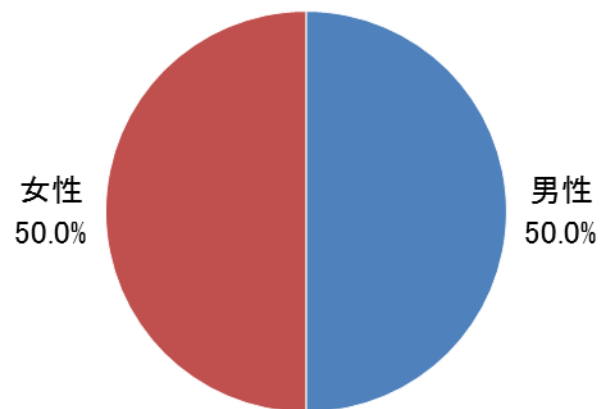
(人) (人)

- ・ 調査実施機関 株式会社エントリーサポート

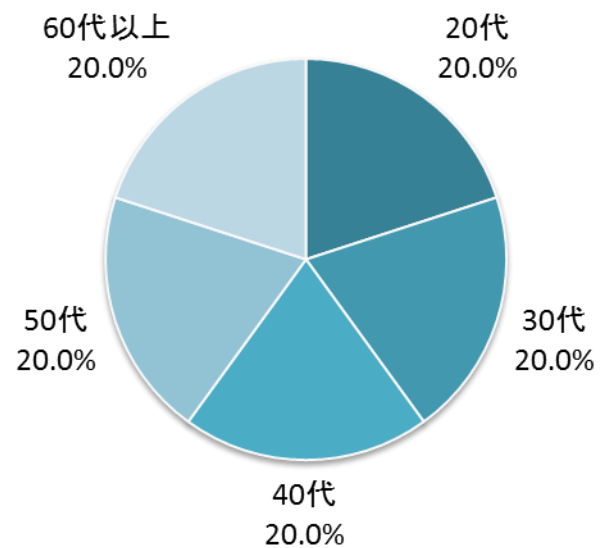
# 対象者のプロフィール (n=3,000)

---

【性別】



【年代】



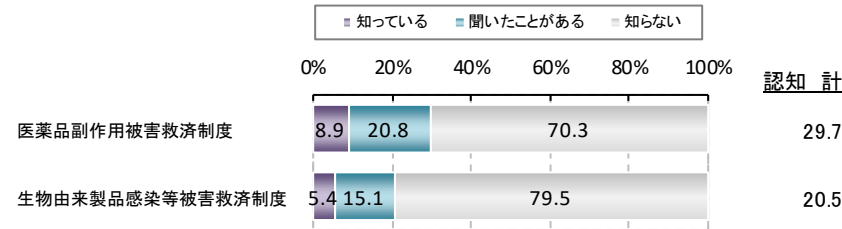
Summary

# Summary (その1)

## 【健康被害救済制度 認知率】

(n=3,000)

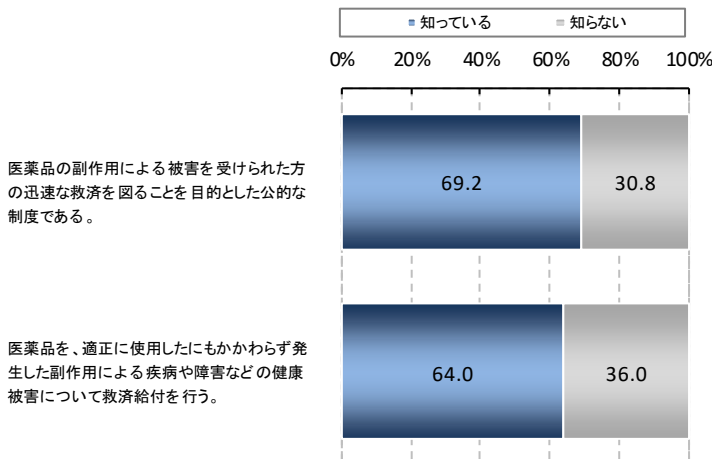
単一回答



## 【健康被害救済制度 内容認知】

医薬品副作用被害救済制度認知者ベース (n = 890)

単一回答

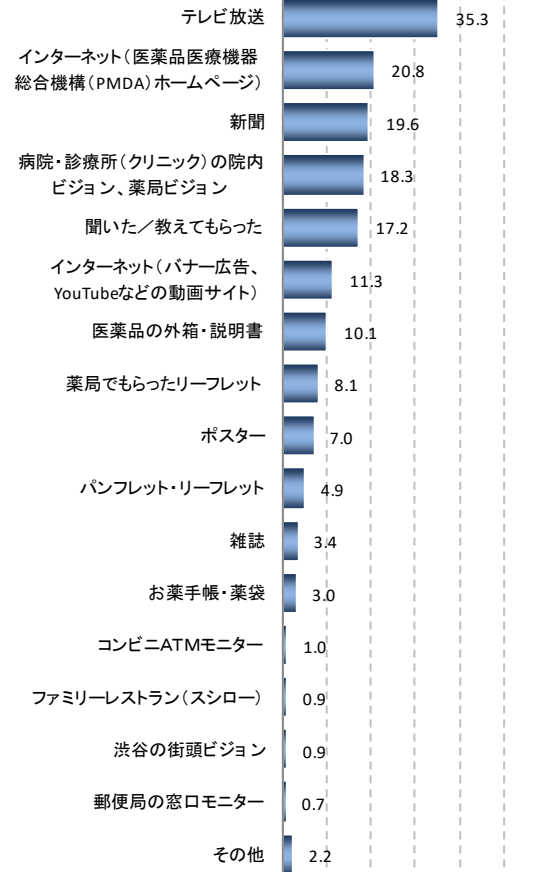


## 【健康被害救済制度 認知経路】

医薬品副作用被害救済制度認知者ベース (n = 890)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

複数回答



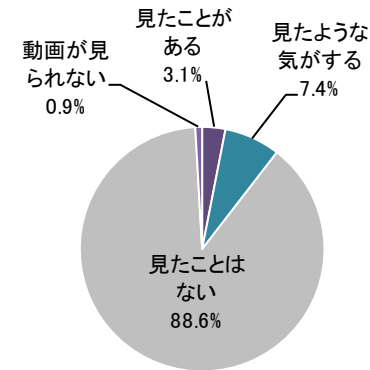
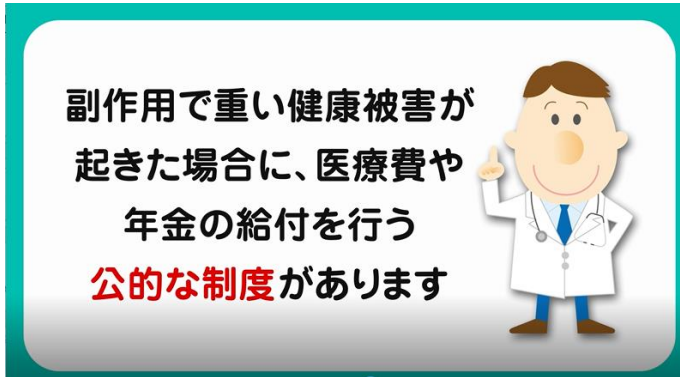
- ・医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は30%、生物由来製品感染等被害救済制度の認知率は21%。
- ・医薬品副作用被害救済制度の認知経路で最も多いのは「テレビ放送」が35%。次いで「インターネット(医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページ)」(21%)、「新聞」(20%)。

## Summary (その2)

### 【テレビCM 認知率】

単一回答

(n=3,000)

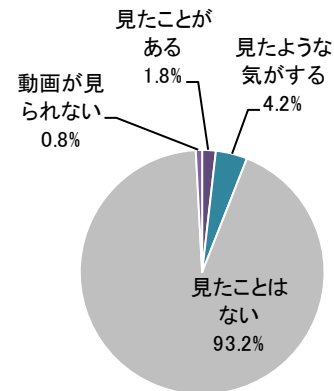
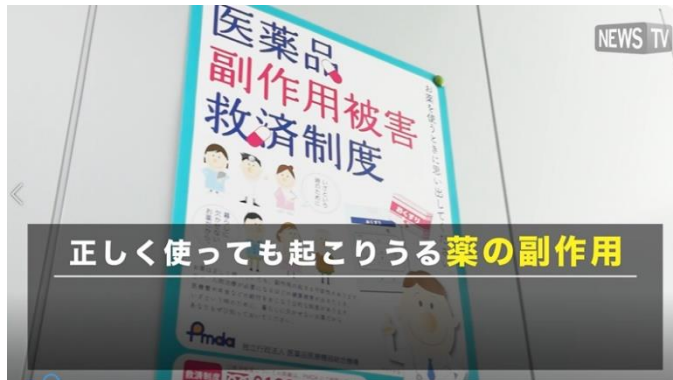


見たことがある＋見たような気がする 計 10.5%

### 【救済制度紹介動画 認知率】

単一回答

(n=3,000)



見たことがある＋見たような気がする 計 6.0%

- ・テレビCMの認知率(見たことがある＋見たような気がする)は11%
- ・救済制度紹介動画の認知率(見たことがある＋見たような気がする)は6%



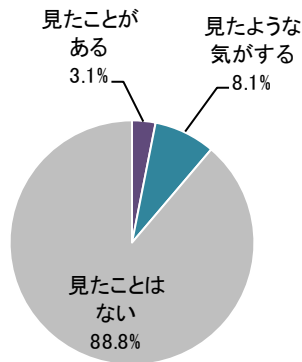
# Summary (その3)

## 【新聞広告 認知率】

単一回答

新聞広告

(n=3,000)

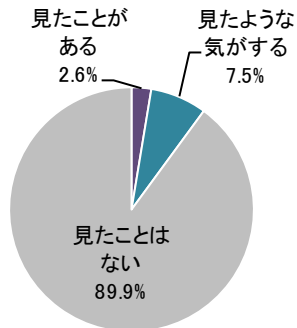


見たことがある+見たような気がする 計 11.2%

## 【薬局ビジョンや院内ビジョン 認知率】

単一回答

(n=3,000)

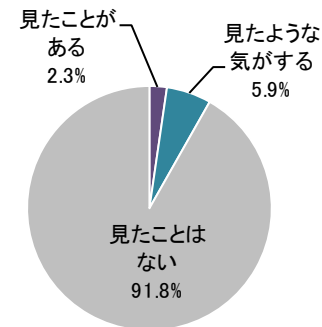


見たことがある+見たような気がする 計 10.1%

## 【救済制度特設サイト 認知率】

単一回答

救済制度特設サイト (n=3,000)



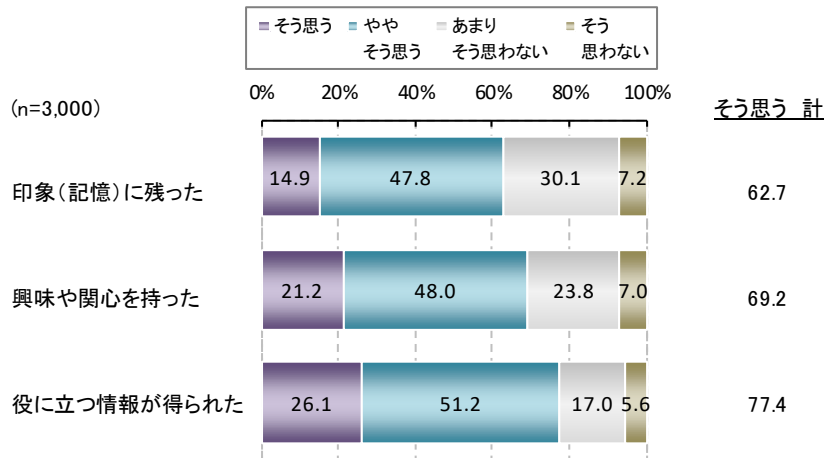
見たことがある+見たような気がする 計 8.2%

- ・新聞広告の認知率(見たことがある+見たような気がする)は11%
- ・薬局ビジョンや院内ビジョンの認知率(見たことがある+見たような気がする)は10%
- ・救済制度特設サイトの認知率(見たことがある+見たような気がする)は8%

# Summary (その4)

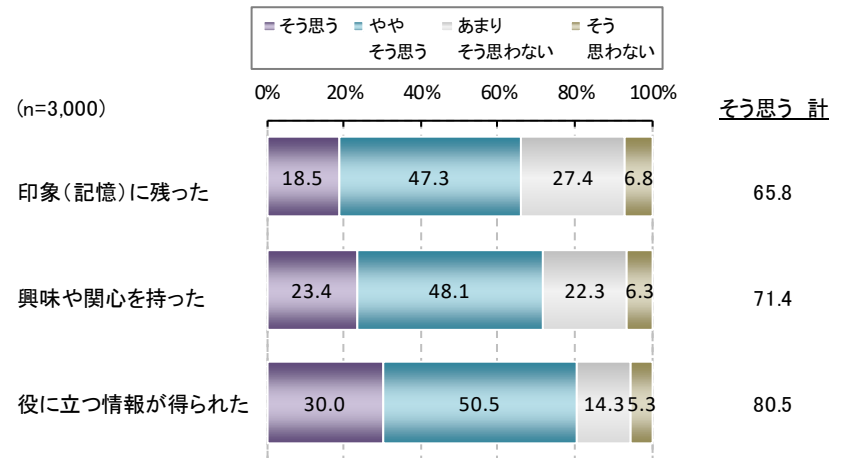
## 【テレビCMの評価】

単一回答



## 【救済制度紹介動画の評価】

単一回答



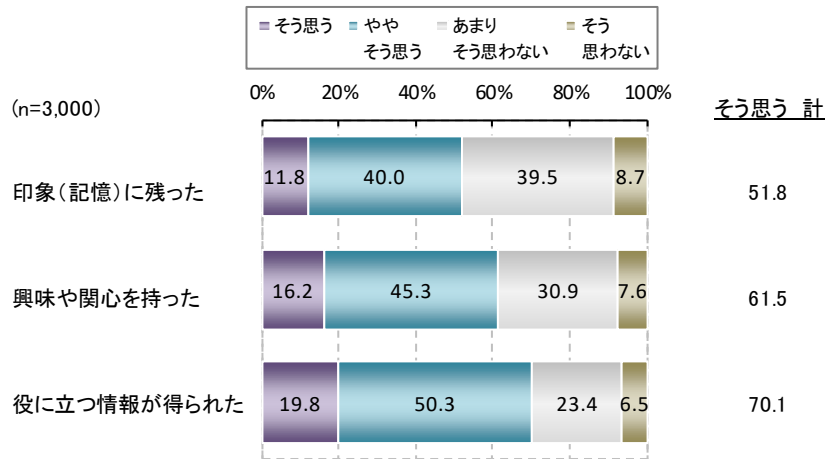
・テレビCMの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「役に立つ情報が得られた」77%。以下、「興味や関心を持った」69%、「印象(記憶)に残った」63%。

・救済制度紹介動画の評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「役に立つ情報が得られた」81%。以下、「興味や関心を持った」71%、「印象(記憶)に残った」66%。

# Summary (その5)

## 【新聞広告の評価】

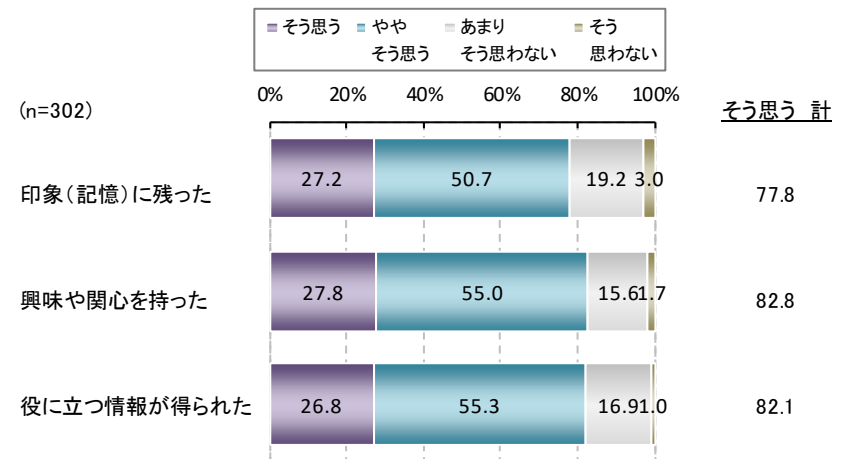
単一回答



## 【薬局ビジョンや院内ビジョンの評価】

単一回答

薬局ビジョンや院内ビジョン認知者ベース



・新聞広告の評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「役に立つ情報が得られた」70%、以下、「興味や関心を持った」62%、「印象(記憶)に残った」52%。

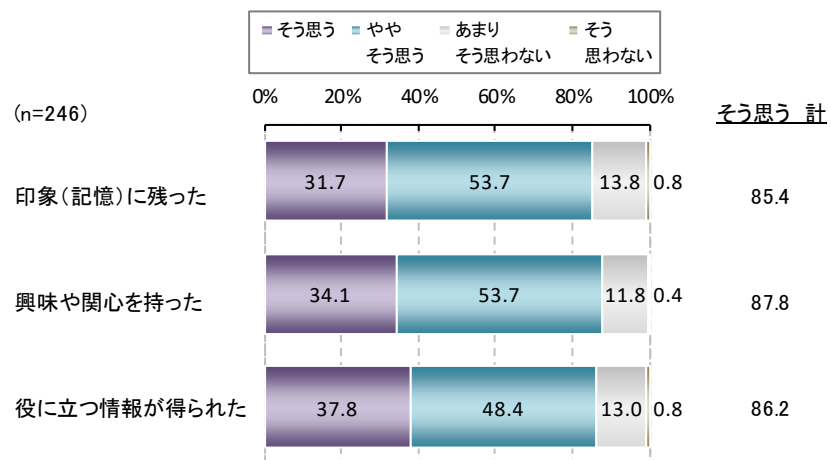
・薬局ビジョンや院内ビジョンの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「興味や関心を持った」83%、以下、「役に立つ情報が得られた」82%、「印象(記憶)に残った」78%。

## Summary (その6)

### 【救済制度特設サイトの評価】

単一回答

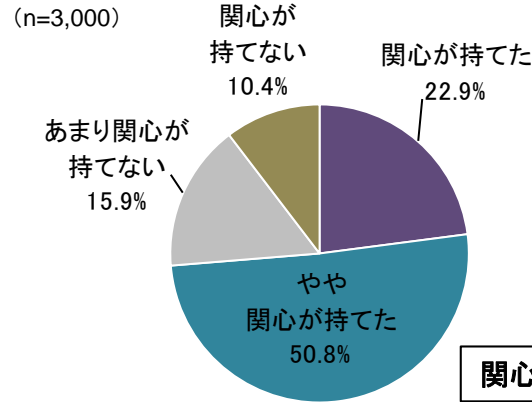
救済制度特別サイト認知者ベース



・救済制度特設サイトの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「興味や関心を持った」88%、以下、「役に立つ情報が得られた」86%、「印象(記憶)に残った」85%。

### 【医薬品副作用被害救済制度 関心度】

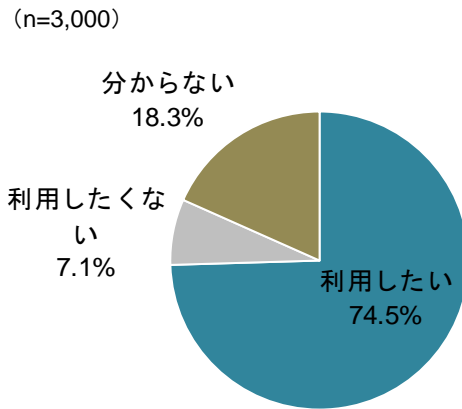
単一回答



関心が持てた+やや関心が持てた 計73.7%

### 【医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向】

単一回答



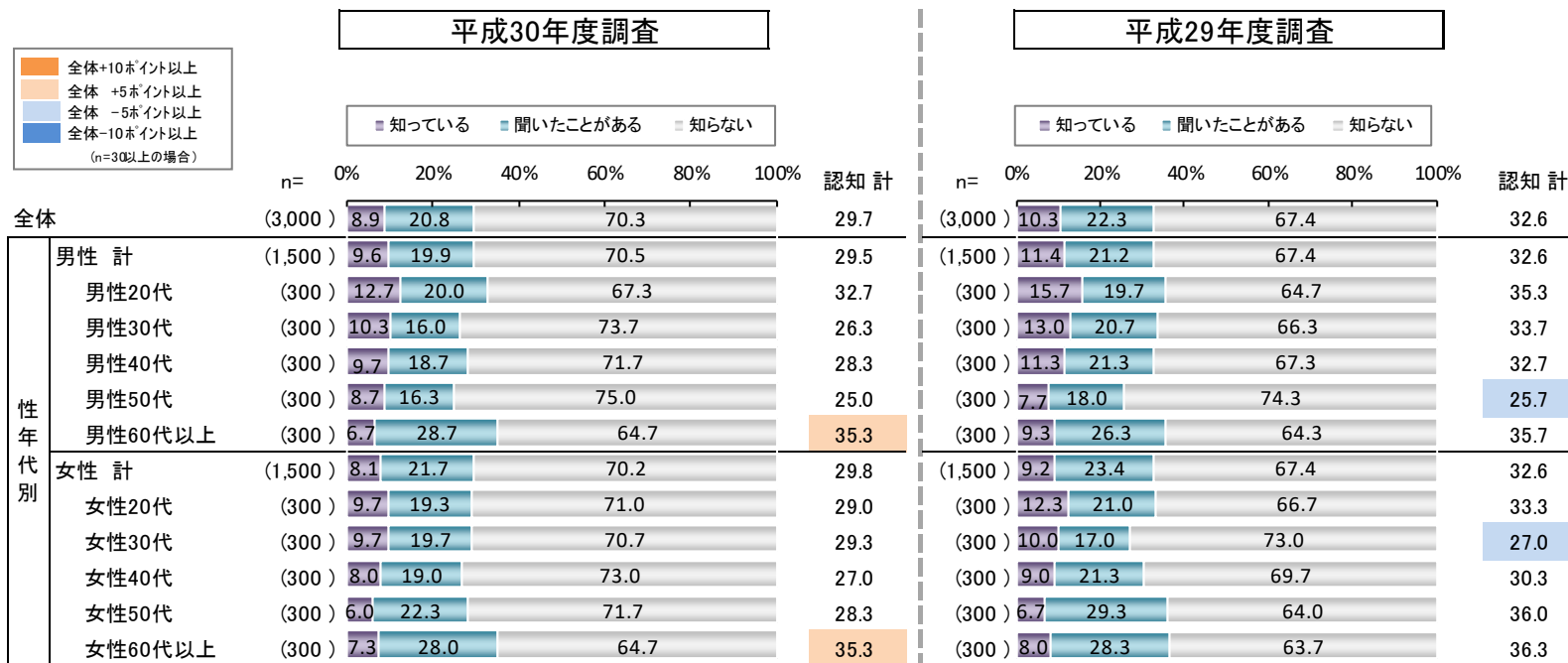
- ・医薬品副作用被害救済制度の関心度(関心が持てた+やや関心が持てた)は74%
- ・医薬品副作用被害救済制度の今後の利用意向(利用したい)は75%

調査結果

# Q1 医薬品副作用被害救済制度 認知率

単一回答

H30/H29 Q1 あなたは、副作用が起きたときに、医療費等の救済給付を行う「医薬品副作用被害救済制度」があることをご存じですか。

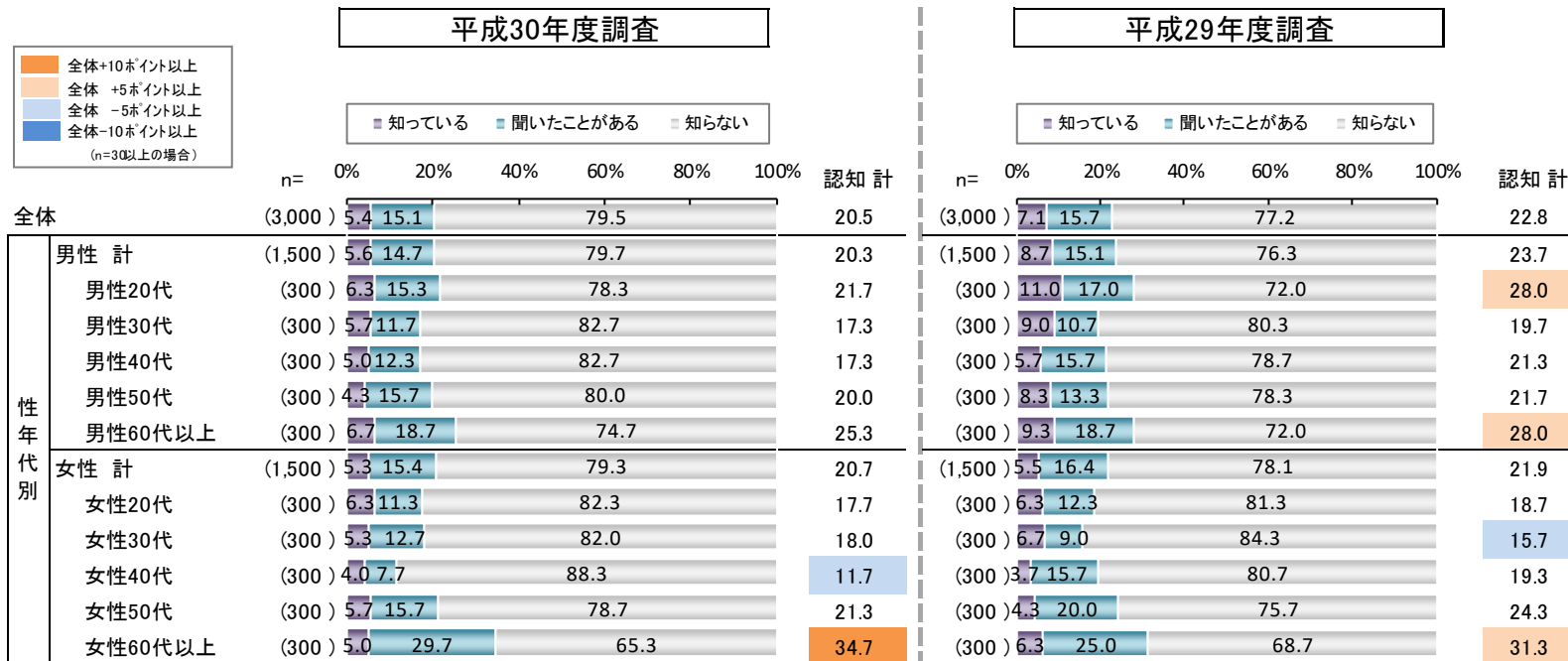


- ・医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は30%。
- 【性・年代別】
- ・男性50代と女性40代の認知は低い。男女とも60代以上の認知度はやや高い。

# Q2 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率

単一回答

H30/H29 Q2 あなたは、輸血用血液製剤などを介して感染などが発生した場合に、医療費等の救済給付を行う「生物由来製品感染等被害救済制度」があることをご存じですか。



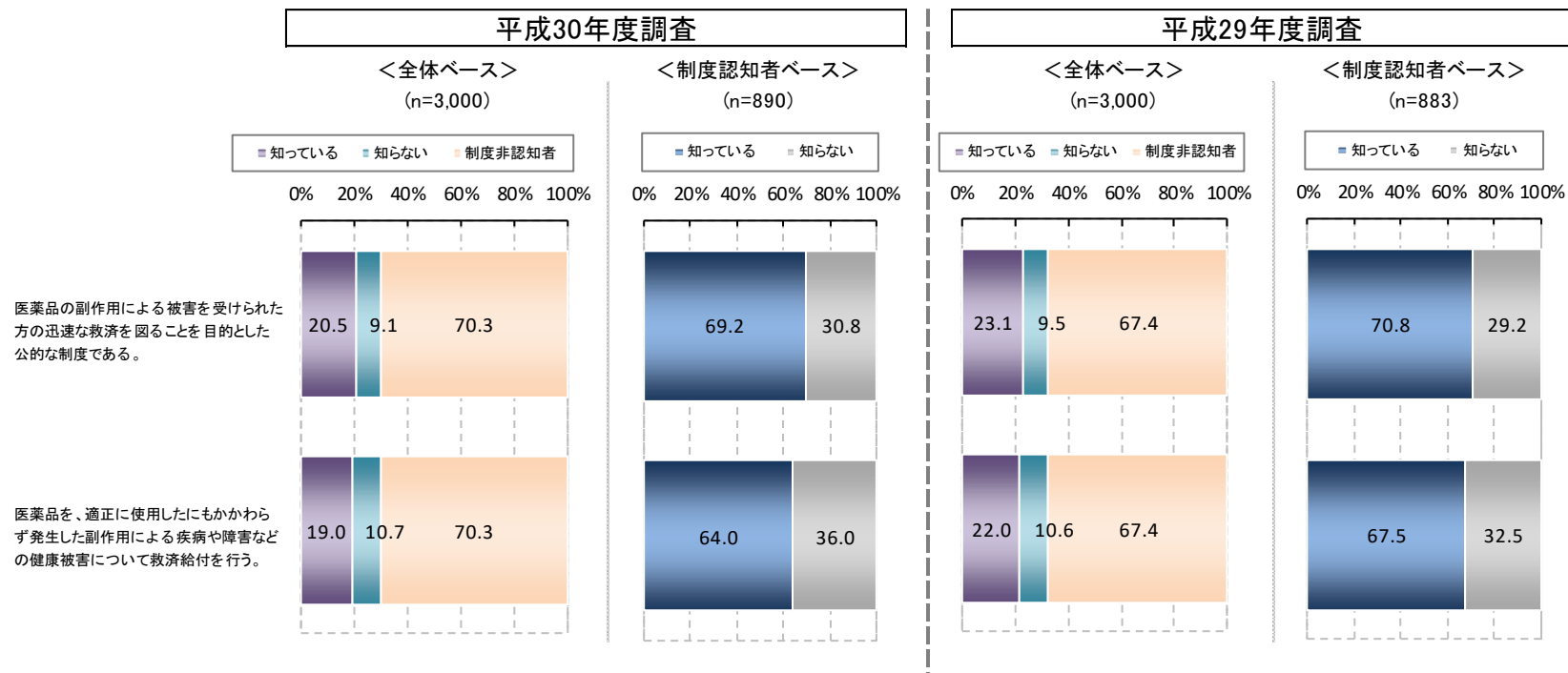
・生物由来製品感染等被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は21%。  
 【性・年代別】  
 ・女性40代の認知率は全体と比較して低い。男性、女性ともに60代以上の認知度は高い。



# Q3 医薬品副作用被害救済制度 内容認知（全体）

単一回答

H30/H29 Q3「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。



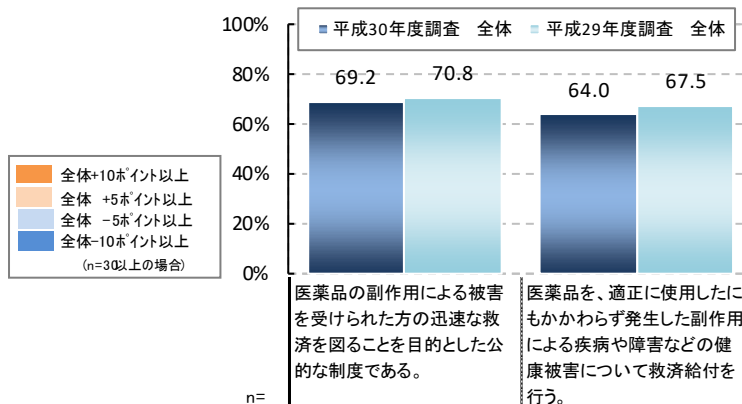
・制度認知者において、認知されている提示内容は、どちらも6割以上の方が認知している。

# Q3 医薬品副作用被害救済制度 内容認知（性・年代別）

単一回答

H30/H29 Q3「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

制度の認知内容毎に「知っている」と回答した方の割合を、制度認知者ベースで計算しグラフ化



		平成30年度調査 全体	69.2	64.0
性年代別	男性 計	(443)	72.2	65.2
	男性20代	(98)	68.4	53.1
	男性30代	(79)	79.7	69.6
	男性40代	(85)	64.7	64.7
	男性50代	(75)	73.3	66.7
	男性60代以上	(106)	75.5	72.6
	女性 計	(447)	66.2	62.9
	女性20代	(87)	59.8	58.6
	女性30代	(88)	63.6	55.7
	女性40代	(81)	58.0	51.9
女性50代	(85)	74.1	70.6	
女性60代以上	(106)	73.6	74.5	
平成29年度調査 全体		(978)	70.8	67.5

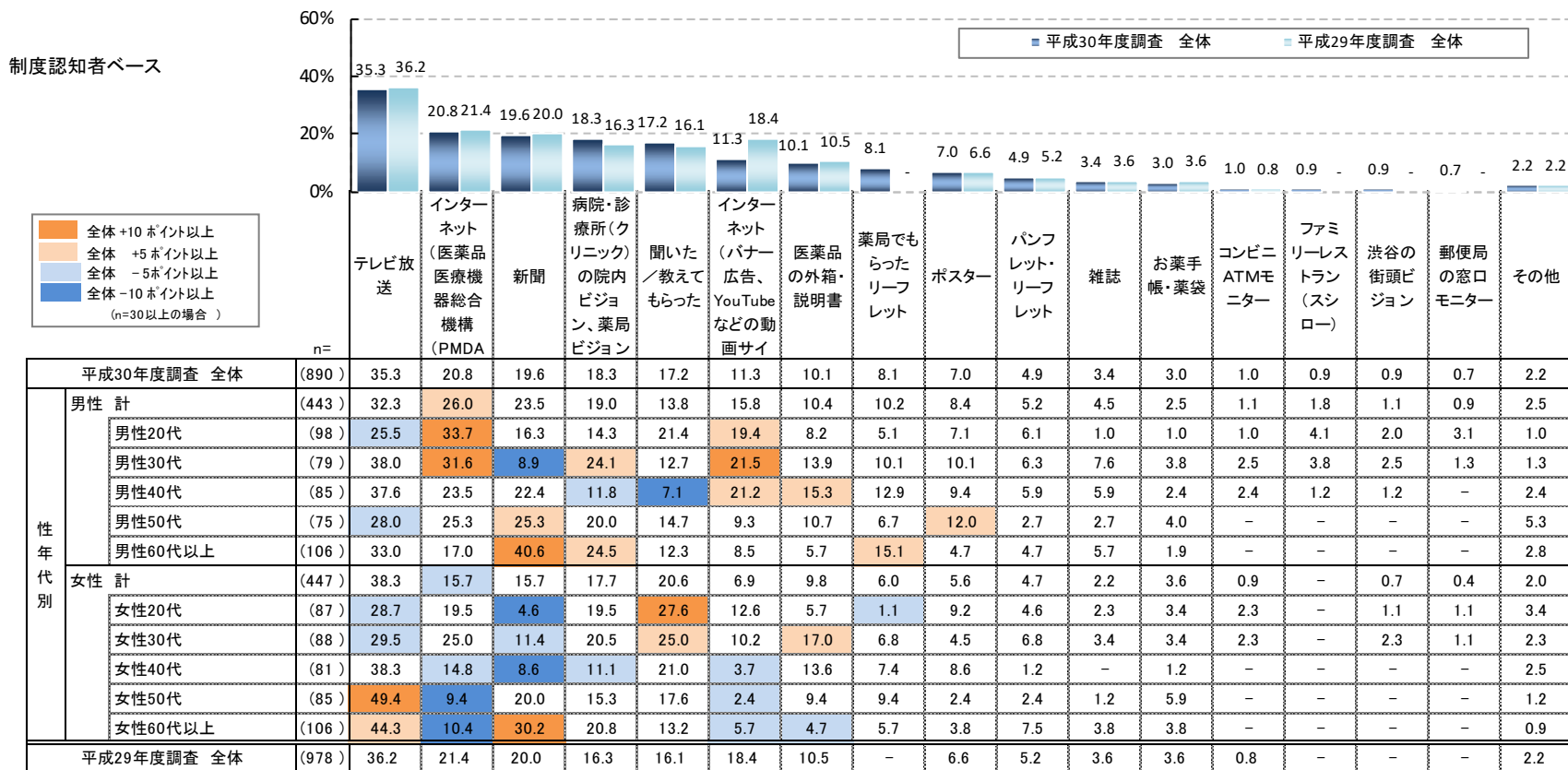
## 【性・年代別】

・男性の30代と男女60代以上の認知率は高い。

# Q4 医薬品副作用被害救済制度 認知経路

複数回答

H30/H29 Q4 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。または、どのようにして(何から)聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。



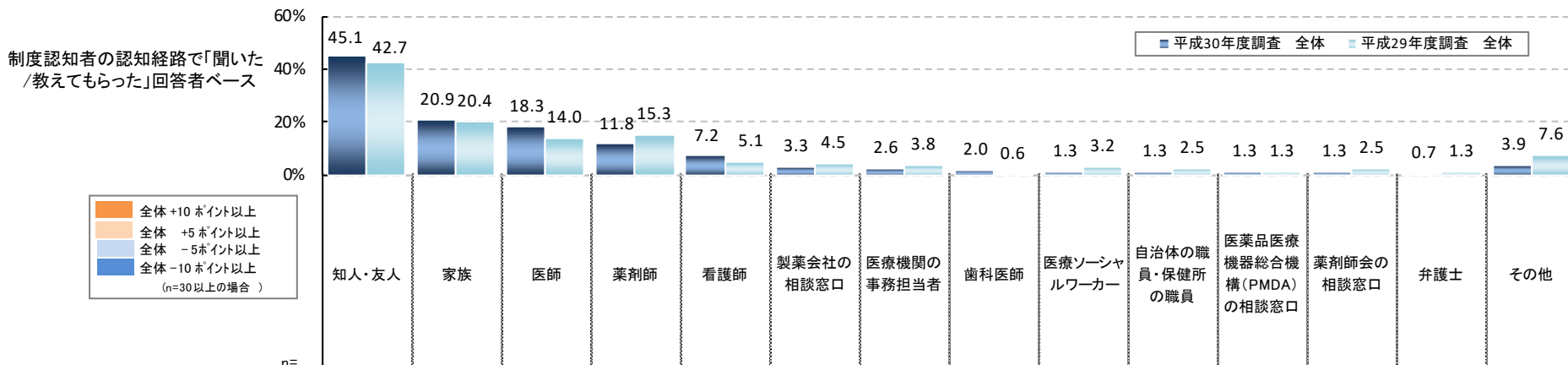
平成30年度調査全体値の降順にソート

- ・主な認知経路は「テレビ放送」35%、「インターネット(PMDA)ホームページ」21%、「新聞」20%と続く。
- ・高齢者は「新聞」の認知度が高く、「インターネット(バナー広告、YouTubeなどの動画サイト)」は男性の若い年代に認知度が高い。

# Q5 医薬品副作用被害救済制度 教えてもらった人

複数回答

H30/H29 Q5 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。



		n=	知人・友人	家族	医師	薬剤師	看護師	製薬会社の相談窓口	医療機関の事務担当者	歯科医師	医療ソーシャルワーカー	自治体の職員・保健所の職員	医薬品医療機器総合機構(PMDA)の相談窓口	薬剤師会の相談窓口	弁護士	その他
平成30年度調査 全体		(153)	45.1	20.9	18.3	11.8	7.2	3.3	2.6	2.0	1.3	1.3	1.3	1.3	0.7	3.9
性年代別	男性 計	(61)	37.7	26.2	18.0	13.1	6.6	3.3	-	3.3	1.6	1.6	1.6	1.6	-	4.9
	男性20代	(21)	38.1	33.3	14.3	4.8	4.8	4.8	-	-	-	-	-	-	-	9.5
	男性30代	(10)	40.0	40.0	10.0	10.0	10.0	10.0	-	-	-	-	10.0	-	-	-
	男性40代	(6)	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-	-
	男性50代	(11)	54.5	27.3	18.2	9.1	-	-	-	-	9.1	-	-	-	-	-
	男性60代以上	(13)	23.1	-	30.8	30.8	15.4	-	-	15.4	-	7.7	-	-	-	7.7
	女性 計	(92)	50.0	17.4	18.5	10.9	7.6	3.3	4.3	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	3.3
	女性20代	(24)	50.0	20.8	16.7	4.2	8.3	4.2	8.3	-	-	-	-	-	-	4.2
	女性30代	(22)	45.5	22.7	13.6	9.1	9.1	4.5	4.5	-	-	-	4.5	4.5	-	9.1
	女性40代	(17)	41.2	5.9	29.4	11.8	5.9	5.9	-	5.9	-	-	-	-	-	-
女性50代	(15)	53.3	20.0	33.3	13.3	-	-	-	-	-	6.7	-	-	6.7	-	
女性60代以上	(14)	64.3	14.3	-	21.4	14.3	-	7.1	-	7.1	-	-	-	-	-	
平成29年度調査 全体		(156)	42.7	20.4	14.0	15.3	5.1	4.5	3.8	0.6	3.2	2.5	1.3	2.5	1.3	7.6


平成30年度調査全体値の降順にソート

- ・「知人・友人」「家族」に続き、「医師」「薬剤師」「看護師」の医療従事者から教えてもらった人が多い。
- ・昨年度より「医師」「看護師」が伸びている。

# Q6 テレビCMの認知率

H29/H28 Q6 あなたは、テレビでCMを見たことがありますか

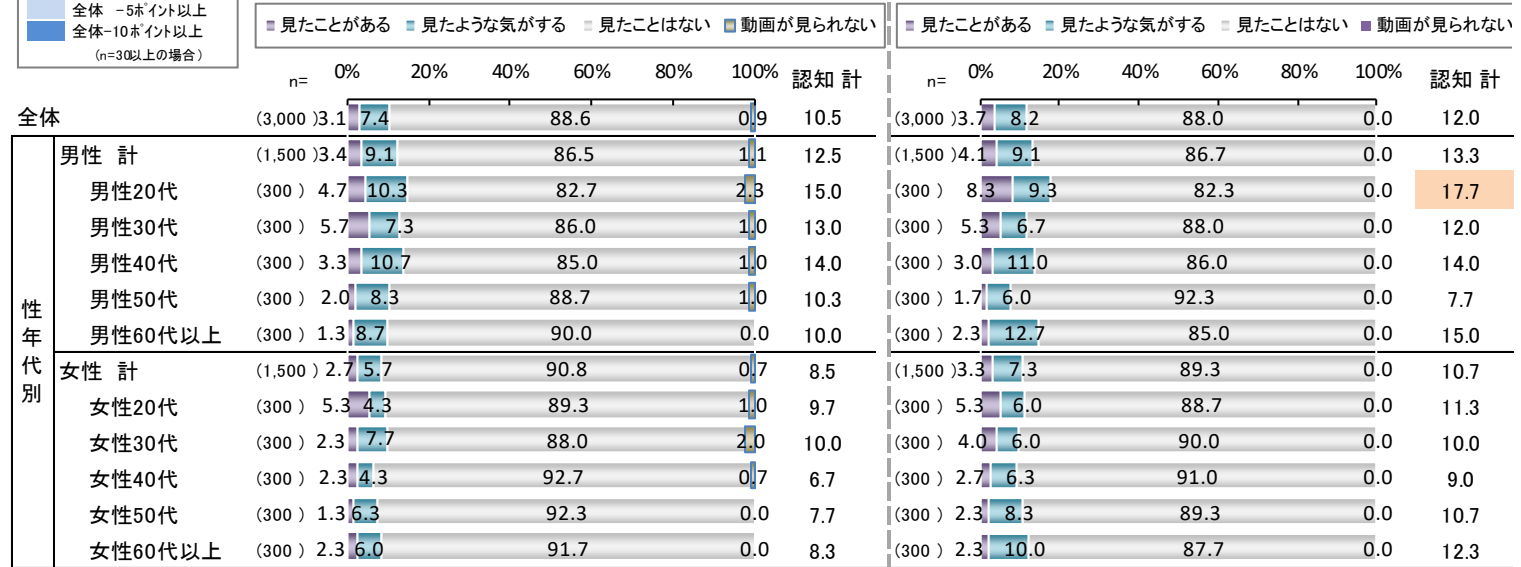
副作用で重い健康被害が起きた場合に、医療費や年金の給付を行う公的な制度があります



■ 全体+10ポイント以上  
■ 全体 +5ポイント以上  
■ 全体 -5ポイント以上  
■ 全体-10ポイント以上  
 (n=30以上の場合)

平成30年度調査

平成29年度調査

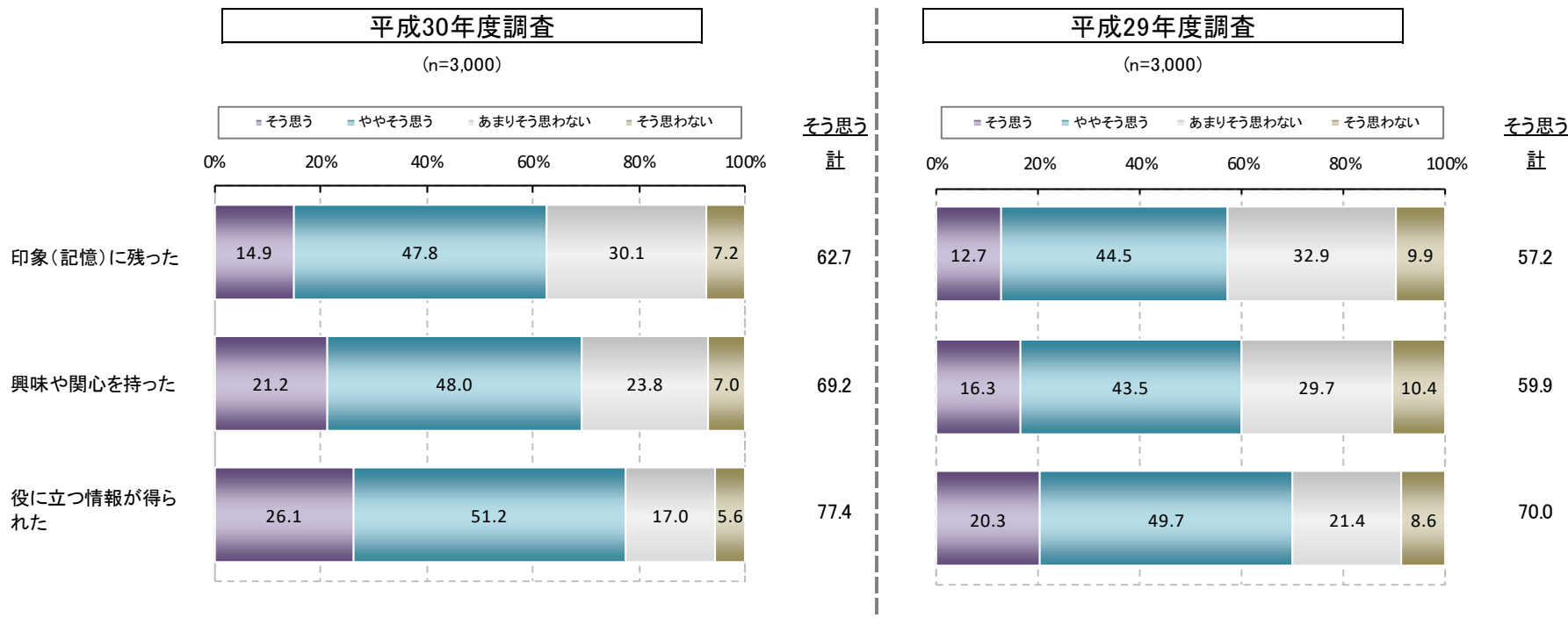


・テレビCMの認知率(見たことがある+見たような気がする)は11%。  
 【性、年代別】  
 ・男性の認知度は女性に比べて高い。  
 ・男性20代の認知度は高い。女性40代の認知度は低い。

# Q7 テレビCMの評価(全体)

単一回答

H30/H29 Q7 動画(CM)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



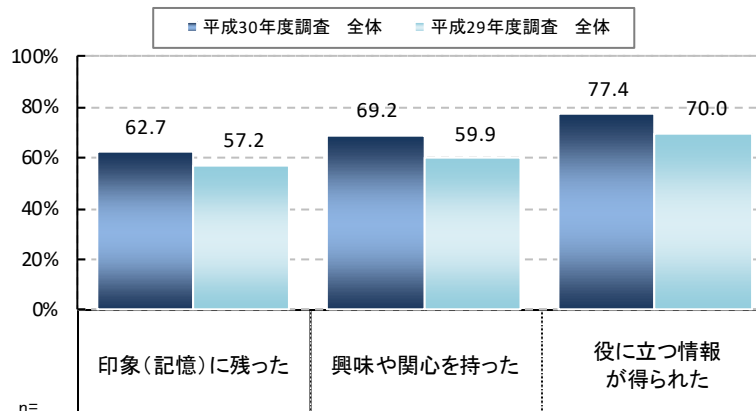
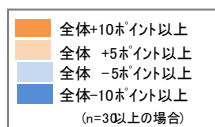
- ・テレビCMの評価(そう思う+ややそう思う)が高かった項目は、「役に立つ情報が得られた」77%、「興味や関心を持った」69%と続く。
- ・昨年度よりも、全ての項目で評価は高くなっている。

# Q7 テレビCMの評価(性・年代別)

単一回答

H30/H29 Q7 動画(CM)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

## 【そう思う 計(そう思う+ややそう思う)】の割合



		n=	印象(記憶)に残った	興味や関心を持った	役に立つ情報が得られた
平成30年度調査 全体		(3,000)	62.7	69.2	77.4
性年代別	男性 計	(1,500)	58.7	62.7	71.7
	男性20代	(300)	48.0	50.7	61.3
	男性30代	(300)	52.7	58.3	70.7
	男性40代	(300)	60.3	62.7	73.3
	男性50代	(300)	60.7	65.7	72.0
	男性60代以上	(300)	71.7	76.3	81.0
	女性 計	(1,500)	66.7	75.6	83.1
	女性20代	(300)	55.0	63.0	71.3
	女性30代	(300)	64.0	73.0	81.0
女性40代	(300)	63.0	73.0	80.7	
女性50代	(300)	70.7	83.0	89.0	
女性60代以上	(300)	80.7	86.0	93.3	
平成29年度調査 全体		(3,000)	57.2	59.9	70.0

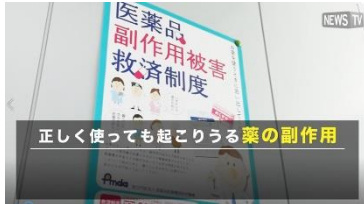
## 【性・年代別】

・男性よりも女性、低年齢層よりも高年齢層で評価が高い。

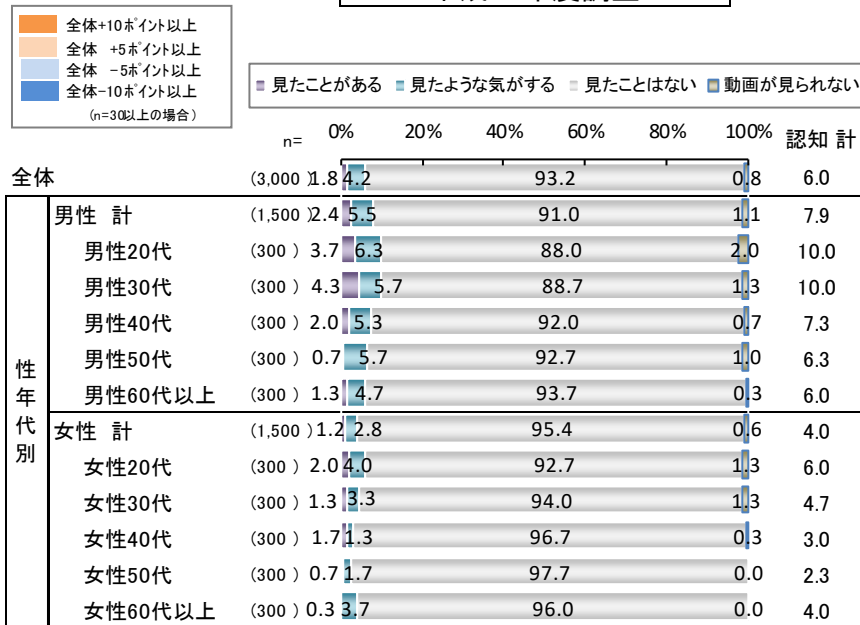
# Q8 救済制度紹介動画の認知率

単一回答

H30 Q8 あなたは、インターネットサイトでこの動画を見たことがありますか



平成30年度調査



・救済制度紹介動画の認知率(見たことがある+見たような気がする)は6%。

【性、年代別】

・男性の認知度は女性に比べて高い。

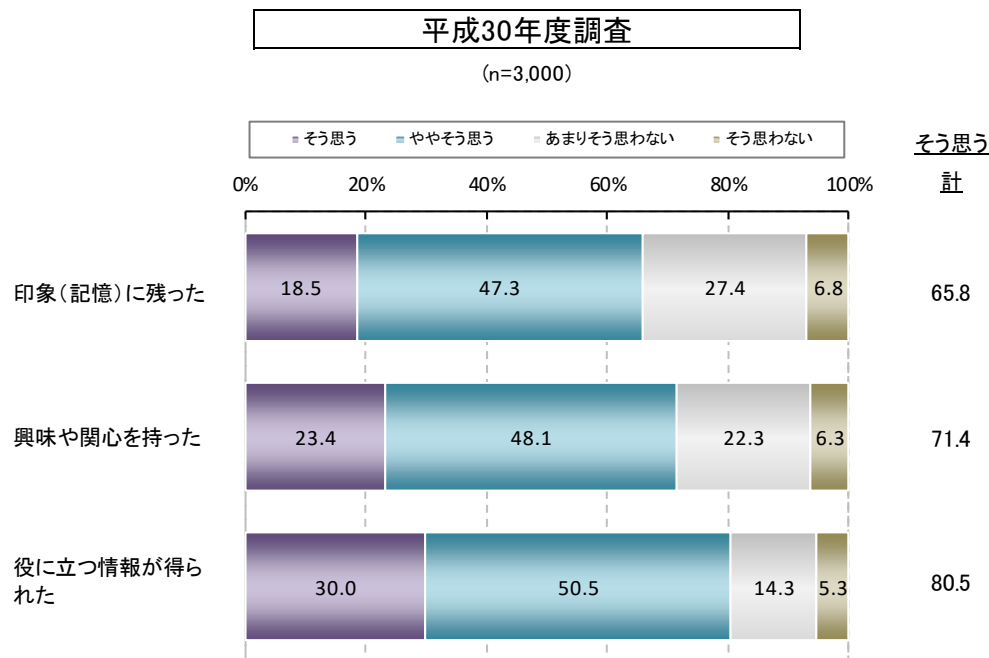
・男性の若い年代の認知度は高い。女性50代の認知度は低い。



## Q9 救済制度紹介動画の評価(全体)

単一回答

H30 Q9 動画(救済制度紹介)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



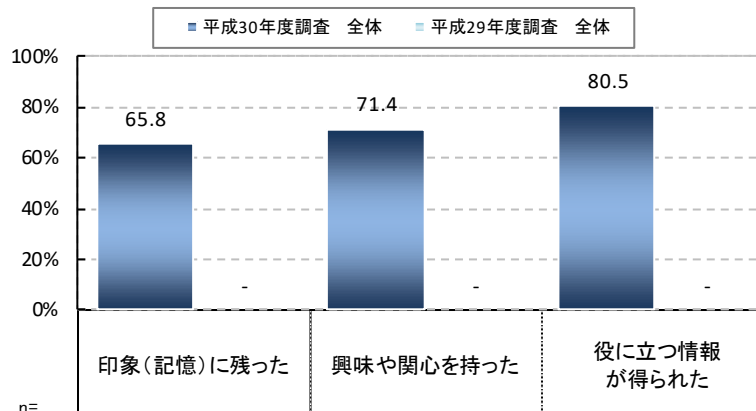
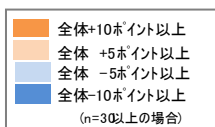
・救済制度紹介動画の評価(そう思う+ややそう思う)が高かった項目は、「役に立つ情報が得られた」81%、「興味や関心を持った」71%と続く。

# Q9 救済制度紹介動画の評価(性・年代別)

単一回答

H30 Q9 動画(救済制度紹介)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

## 【そう思う 計(そう思う+ややそう思う)】の割合



n=		平成30年度調査 全体	印象(記憶)に残った	興味や関心を持った	役に立つ情報が得られた
平成30年度調査 全体		(3,000)	65.8	71.4	80.5
性年代別	男性 計	(1,500)	62.5	66.1	76.1
	男性20代	(300)	51.7	53.0	66.3
	男性30代	(300)	56.3	59.3	73.3
	男性40代	(300)	60.3	66.3	77.0
	男性50代	(300)	64.3	71.3	77.0
	男性60代以上	(300)	79.7	80.7	87.0
	女性 計	(1,500)	69.1	76.7	84.8
	女性20代	(300)	55.3	64.0	75.3
	女性30代	(300)	64.3	73.0	82.0
	女性40代	(300)	64.7	72.0	81.0
女性50代	(300)	74.3	85.0	91.0	
女性60代以上	(300)	87.0	89.7	94.7	
平成29年度調査 全体		(3,000)	-	-	-

## 【性・年代別】

・男性より女性、低年齢層よりも高年齢層で評価が高い。

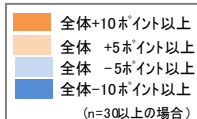
# Q10 新聞広告の認知率

単一回答

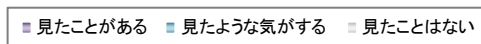
H30/H29 Q10/Q8 あなたは、これまでにこの新聞広告を見たことがありますか。



新聞広告



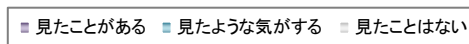
平成30年度調査



n= 0% 20% 40% 60% 80% 100% 認知計

性別	年代	n	見たことがある (%)	見たような気がする (%)	認知計 (%)
全体		3,000	3.1	8.1	11.2
性年代別	男性計	1,500	3.9	9.5	13.4
	男性20代	300	5.3	10.0	15.3
	男性30代	300	5.3	8.7	14.0
	男性40代	300	3.7	9.7	13.3
	男性50代	300	2.3	9.3	11.7
	男性60代以上	300	2.7	10.0	12.7
	女性計	1,500	2.3	6.7	9.0
	女性20代	300	4.0	5.3	9.3
	女性30代	300	3.3	8.7	12.0
	女性40代	300	2.0	3.7	5.7
	女性50代	300	1.0	7.7	8.7
	女性60代以上	300	1.3	8.0	9.3

平成29年度調査



n= 0% 20% 40% 60% 80% 100% 認知計

性別	年代	n	見たことがある (%)	見たような気がする (%)	認知計 (%)
全体		3,000	4.0	9.6	13.6
性年代別	男性計	1,500	4.8	11.1	15.9
	男性20代	300	9.0	11.7	20.7
	男性30代	300	5.0	10.7	15.7
	男性40代	300	3.3	12.7	16.0
	男性50代	300	3.3	8.7	12.0
	男性60代以上	300	3.3	12.0	15.3
	女性計	1,500	3.3	8.1	11.3
	女性20代	300	6.3	6.3	12.7
	女性30代	300	3.3	7.0	10.3
	女性40代	300	2.3	6.7	9.0
	女性50代	300	1.3	10.0	11.3
	女性60代以上	300	3.0	10.3	13.3

・新聞広告の認知率(見たことがある+見たような気がする)は11%。

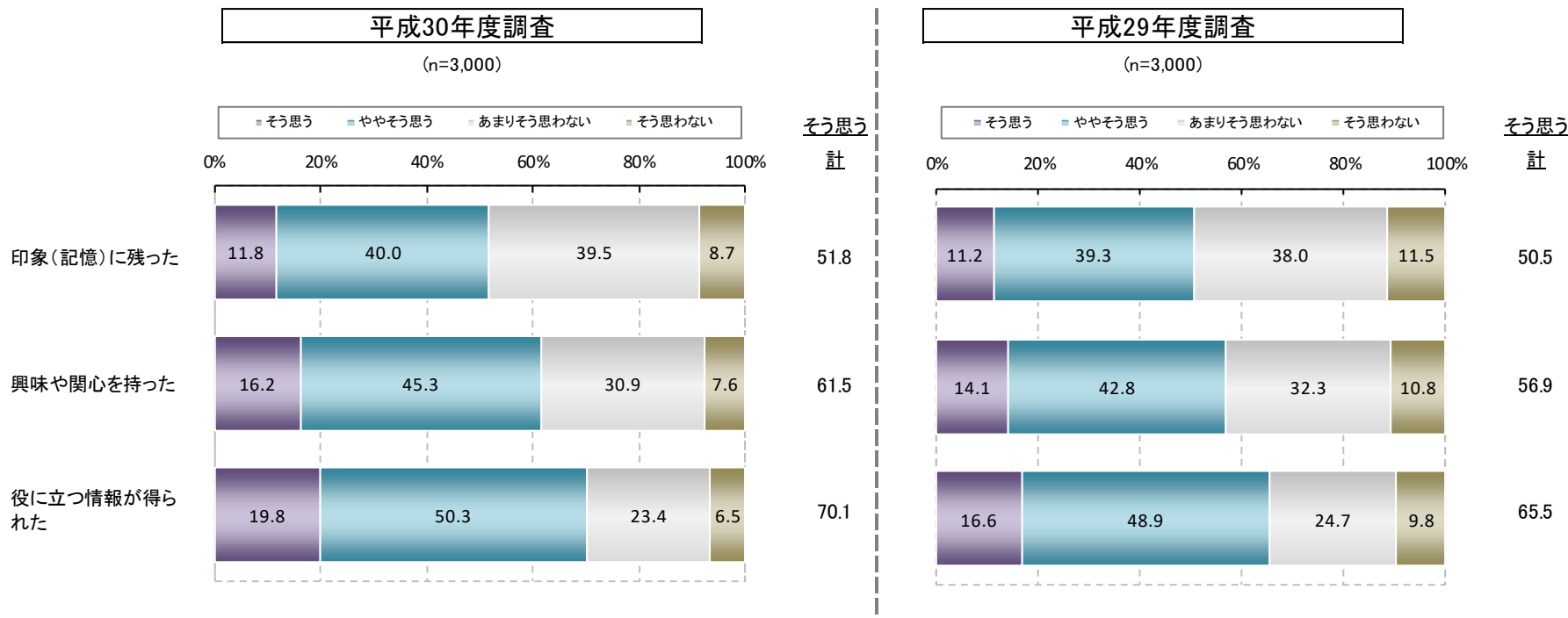
【性、年代別】

・男性の認知度は女性に比べて高い。女性40代の認知度は低い。

# Q11 新聞広告の評価（全体）

単一回答

H30/H29 Q11/Q9 新聞広告をご覧になった感想をお聞きます。どう思われましたか。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



・新聞広告の評価(そう思う+ややそう思う)が高かった項目は「役に立つ情報が得られた」70%。以下、「興味や関心を持った」62%、「印象(記憶)に残った」52%が続く。

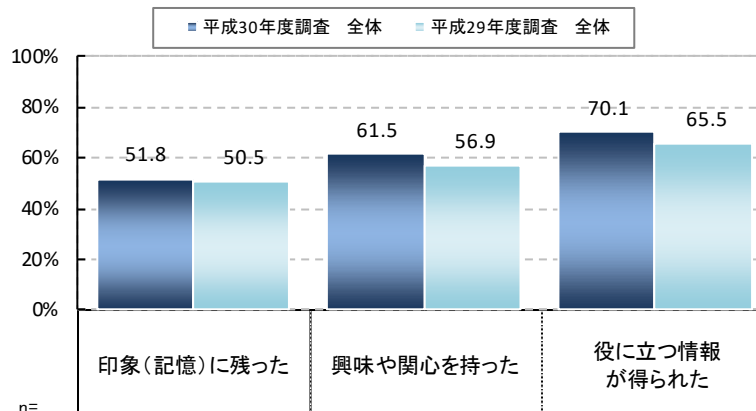
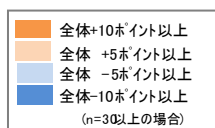
・昨年度よりも、全ての項目で評価は高くなっている。

# Q11 新聞広告の評価（性・年代別）

単一回答

H30/H29 Q11/Q9 新聞広告をご覧になった感想をお聞きます。どう思われましたか。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

## 【そう思う 計(そう思う+ややそう思う)】の割合



		n=	印象(記憶)に残った	興味や関心を持った	役に立つ情報が得られた
平成30年度調査 全体		(3,000)	51.8	61.5	70.1
性年代別	男性 計	(1,500)	48.6	56.1	65.3
	男性20代	(300)	42.0	48.3	60.0
	男性30代	(300)	44.3	51.3	63.0
	男性40代	(300)	48.3	55.3	66.3
	男性50代	(300)	47.7	56.0	63.7
	男性60代以上	(300)	60.7	69.3	73.7
	女性 計	(1,500)	55.1	66.9	74.9
	女性20代	(300)	39.7	52.3	64.3
	女性30代	(300)	50.7	62.0	70.7
女性40代	(300)	53.3	65.7	72.3	
女性50代	(300)	61.0	75.3	82.0	
女性60代以上	(300)	70.7	79.0	85.3	
平成29年度調査 全体		(3,000)	50.5	56.9	65.5

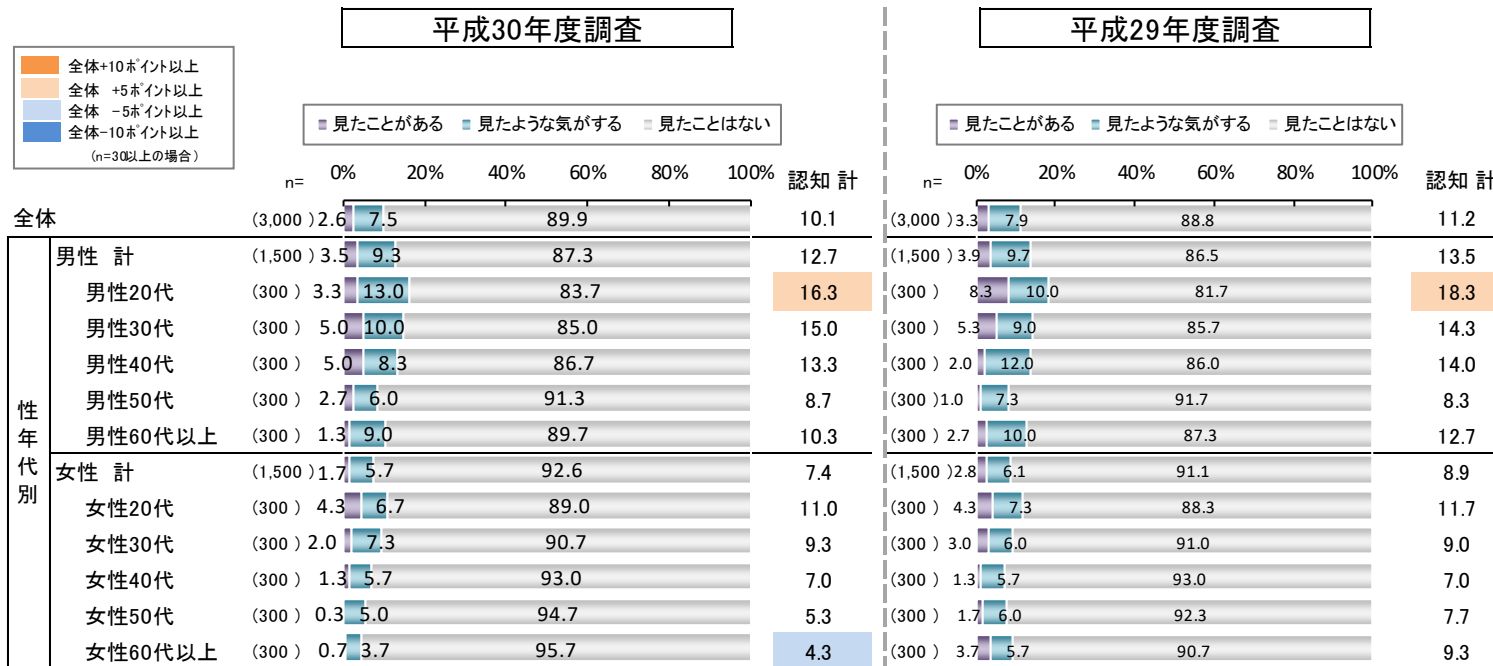
## 【性・年代別】

・男性よりも女性、低年齢層よりも高年齢層で評価が高い。

# Q12 薬局ビジョンや院内ビジョンの認知率

単一回答

H30/H29 Q12/Q10 あなたは、これまでに薬局ビジョンや院内ビジョンで救済制度のCM(動画)を見たことがありますか。



・薬局ビジョンや院内ビジョンの認知率(見たことがある+見たような気がする)は10%。

【性、年代別】

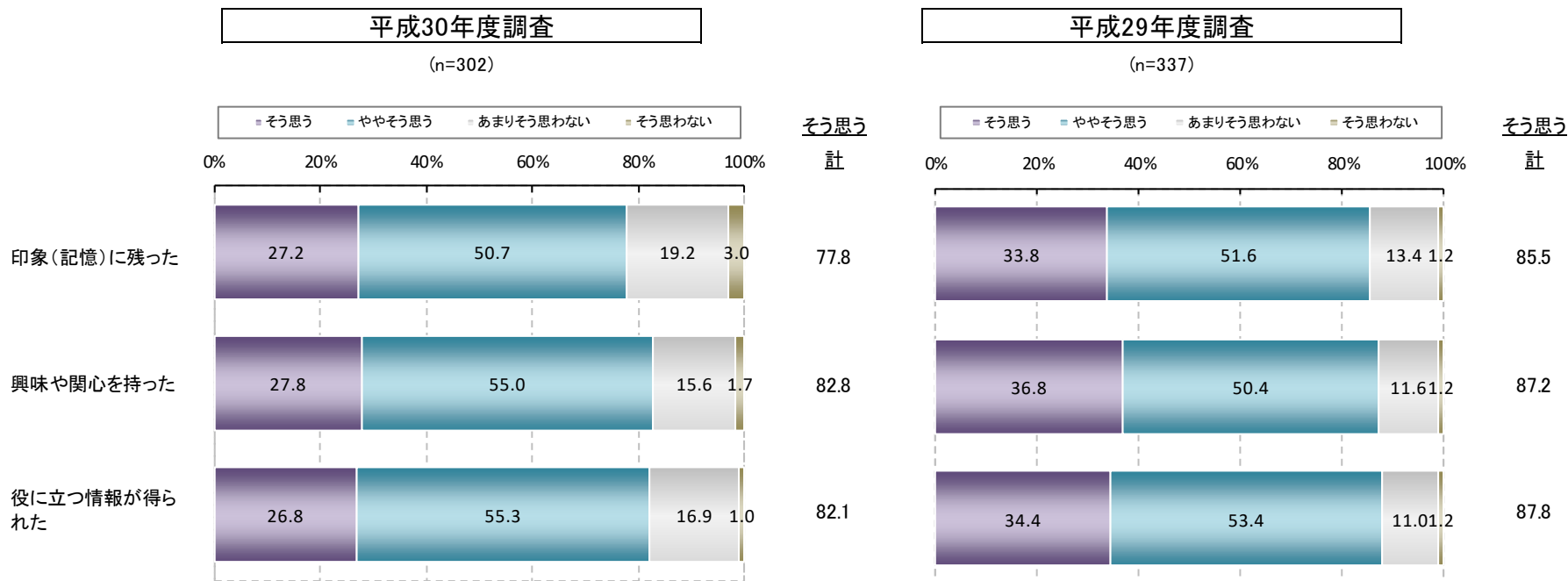
・男性20代の認知度は高め。女性60代以上の認知度は低い。

# Q13 薬局ビジョンや院内ビジョンの評価（全体）

単一回答

H30/H29 Q13/Q11 薬局ビジョンや院内ビジョンのCMをご覧になった感想をお聞きます。どうおられましたか。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

薬局ビジョンや院内ビジョン認知者ベース



・薬局ビジョンや院内ビジョンの評価(そう思う+ややそう思う)が高かった項目は「興味や関心を持った」83%。以下、「役に立つ情報が得られた」82%、「印象(記憶)に残った」78%が続く。

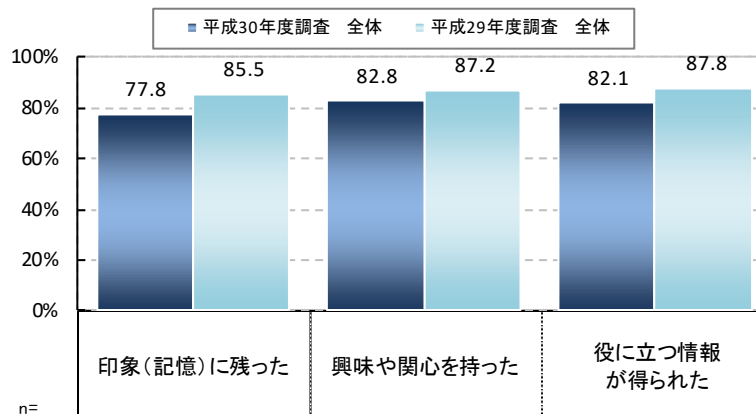
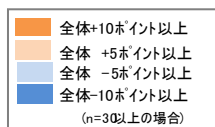
# Q13 薬局ビジョンや院内ビジョンの評価（性・年代別）

単一回答

H30/H29 Q13/Q11 薬局ビジョンや院内ビジョンのCMをご覧になった感想をお聞きます。どう思われましたか。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

薬局ビジョンや院内ビジョン認知者ベース

【そう思う 計(そう思う+ややそう思う)】の割合】



n=		印象(記憶)に残った	興味や関心を持った	役に立つ情報が得られた
平成30年度調査 全体	(302)	77.8	82.8	82.1
性年代別	男性 計	(191) 78.5	84.3	83.8
	男性20代	(49) 75.5	83.7	75.5
	男性30代	(45) 86.7	82.2	82.2
	男性40代	(40) 82.5	90.0	92.5
	男性50代	(26) 73.1	84.6	92.3
	男性60代以上	(31) 71.0	80.6	80.6
	女性 計	(111) 76.6	80.2	79.3
	女性20代	(33) 72.7	69.7	72.7
	女性30代	(28) 75.0	85.7	75.0
	女性40代	(21) 66.7	76.2	81.0
女性50代	(16) 87.5	93.8	87.5	
女性60代以上	(13) 92.3	84.6	92.3	
平成29年度調査 全体	(337)	85.5	87.2	87.8

【性・年代別】

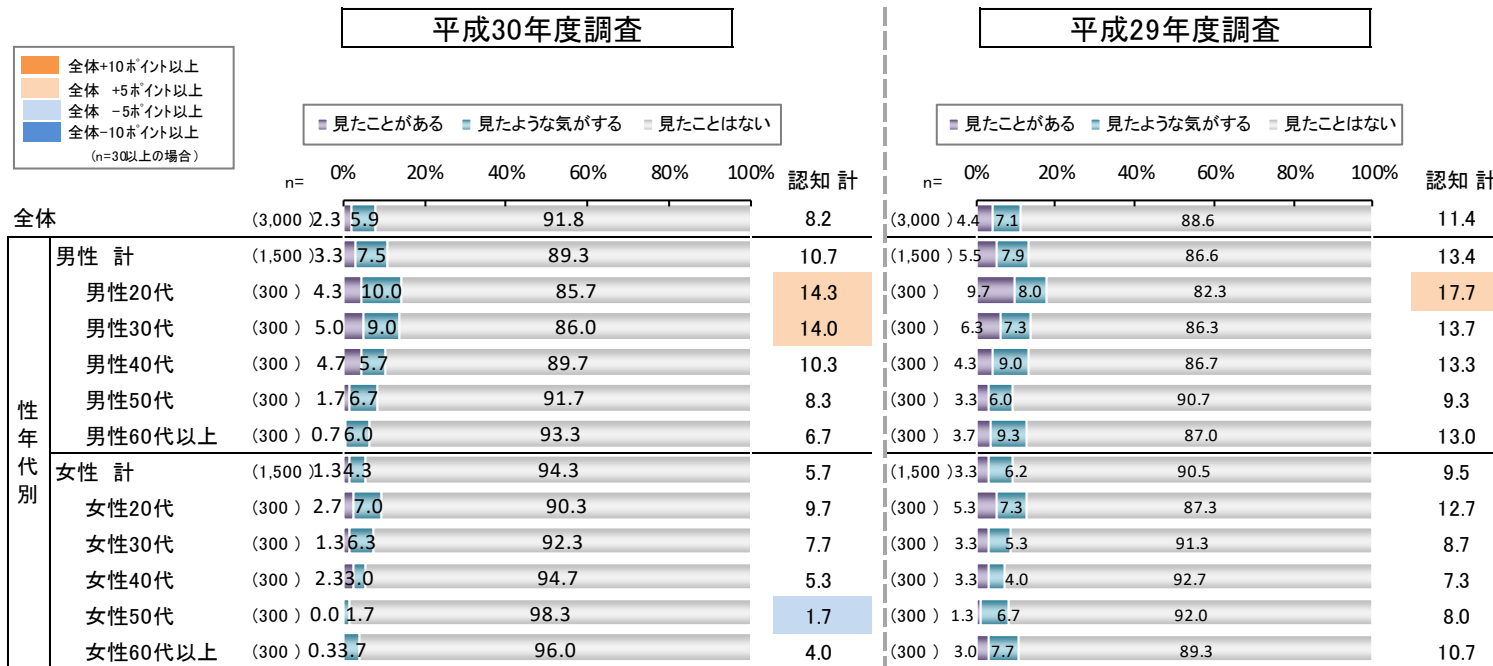
・男性30代の評価は高い。女性20代の評価は低い。



# Q14 救済制度特設サイトの認知率

単一回答

H30/H29 Q14/Q12 あなたは、これまでにインターネットで救済制度特設サイトを見たことがありますか。



・救済制度特設サイトの認知率(見たことがある+見たような気がする)は8%。

【性、年代別】

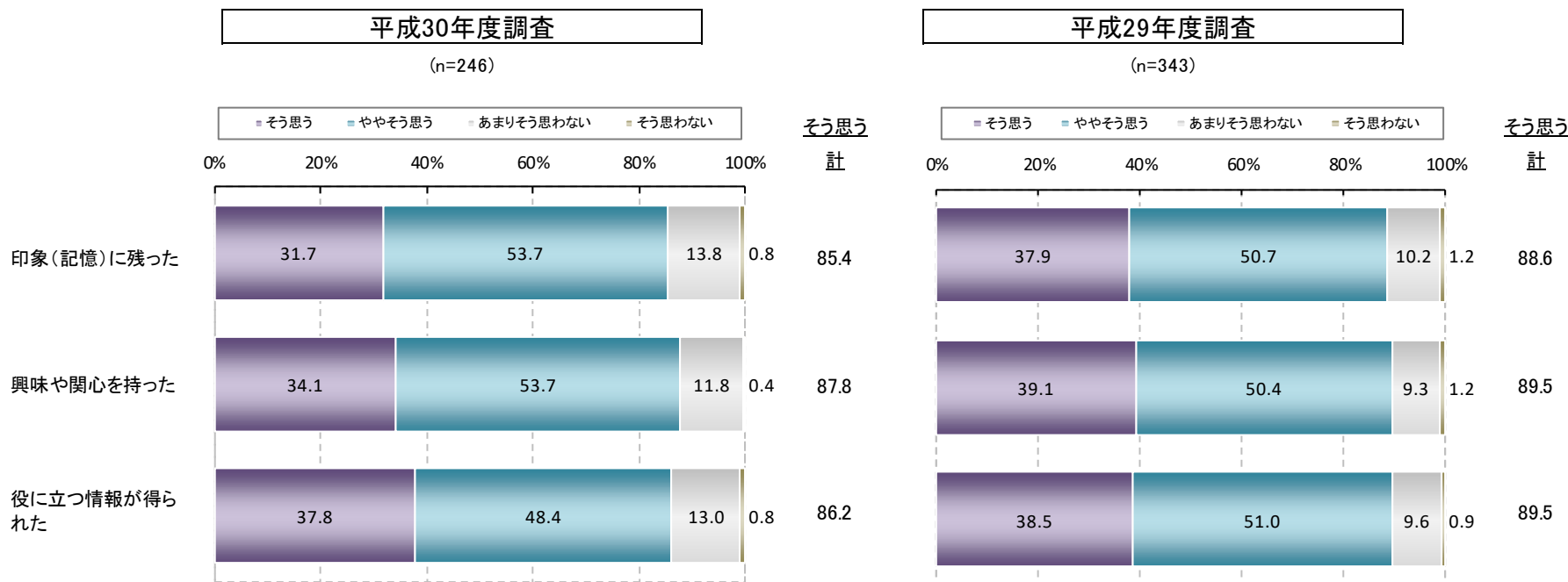
・男性20代、30代の認知度は高め。女性50代の認知度は低い。

# Q15 救済制度特設サイトの評価（全体）

単一回答

H30/H29 Q15/Q13 救済制度特設サイトをご覧になった感想をお聞きます。どう思われましたか。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

救済制度特別サイト認知者ベース



・救済制度特設サイトの評価(そう思う+ややそう思う)が高かった項目は「興味や関心を持った」88%。以下、「役に立つ情報が得られた」86%、「印象(記憶)に残った」85%が続く。

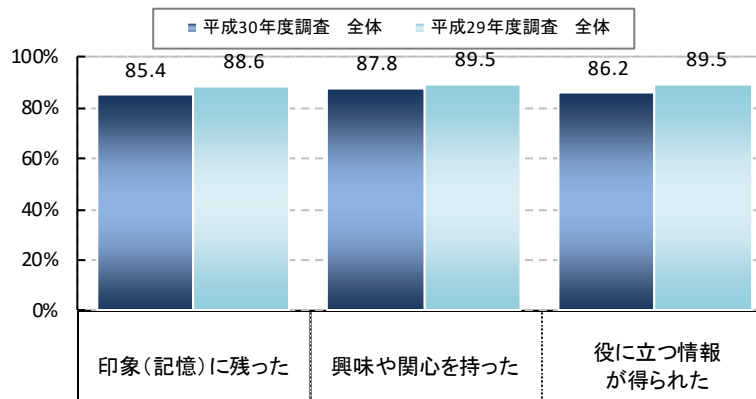
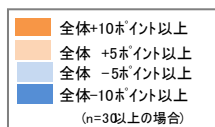
# Q15 救済制度特設サイトの評価（性・年代別）

単一回答

H30/H29 Q15/Q13 救済制度特設サイトをご覧になった感想をお聞きます。どう思われましたか。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

救済制度特別サイト認知者ベース

【そう思う 計(そう思う+ややそう思う)】の割合】



		n=	印象(記憶)に残った	興味や関心を持った	役に立つ情報が得られた
平成30年度調査 全体		(246)	85.4	87.8	86.2
性年代別	男性 計	(161)	85.7	86.3	84.5
	男性20代	(43)	88.4	81.4	74.4
	男性30代	(42)	81.0	88.1	85.7
	男性40代	(31)	87.1	83.9	87.1
	男性50代	(25)	88.0	92.0	88.0
	男性60代以上	(20)	85.0	90.0	95.0
	女性 計	(85)	84.7	90.6	89.4
	女性20代	(29)	86.2	93.1	86.2
	女性30代	(23)	82.6	91.3	95.7
	女性40代	(16)	75.0	75.0	75.0
女性50代	(5)	100.0	100.0	100.0	
女性60代以上	(12)	91.7	100.0	100.0	
平成29年度調査 全体		(343)	88.6	89.5	89.5

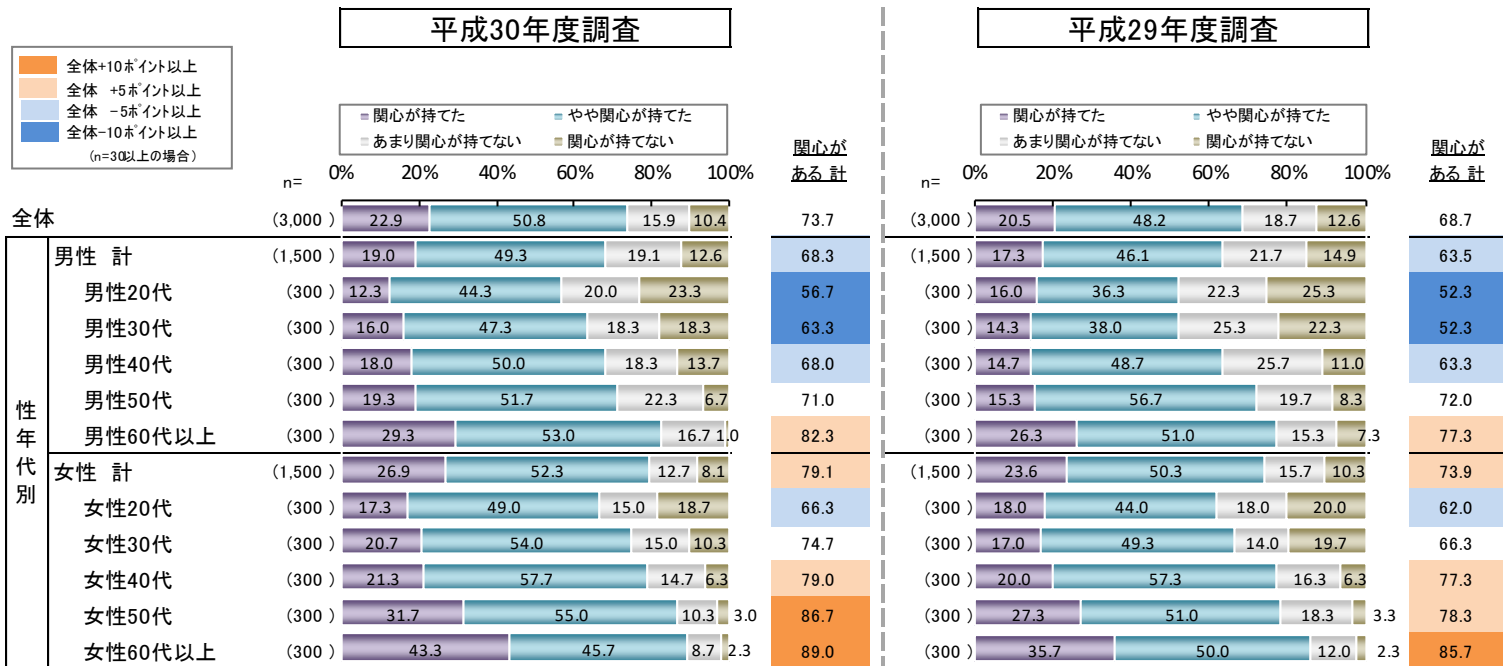
【性・年代別】

・男女とも全ての項目で7割以上の評価がある。高年齢層でも評価が高い傾向にある。

# Q16 医薬品副作用被害救済制度 関心度

単一回答

H30/H29 Q16/Q14 画像(リーフレット)をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心が持てましたか。



・医薬品副作用被害救済制度についての関心度(関心が持てた+やや関心が持てた)は74%で、昨年度より高くなっている。

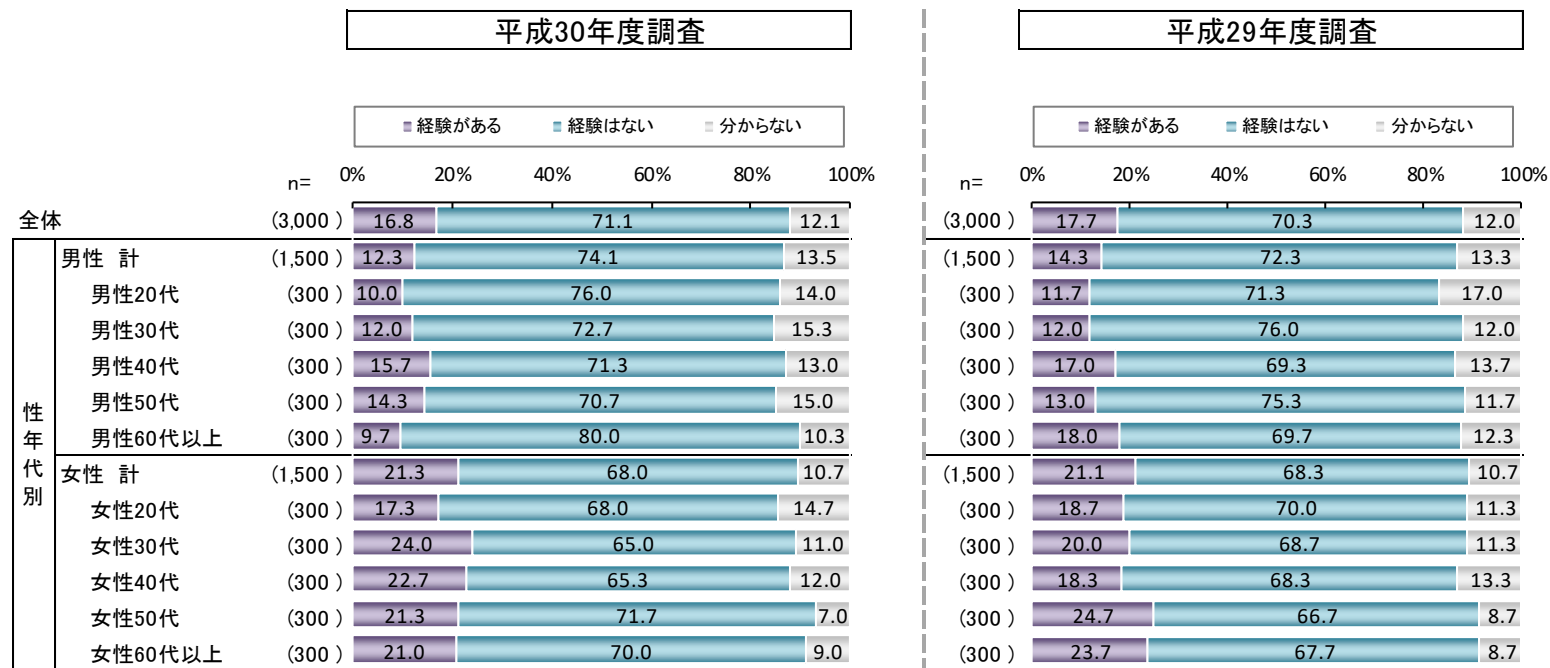
【性・年代別】

・「女性」の関心が高く、女性は50代以上の年代で80%以上。

# Q18 副作用の経験（本人）

単一回答

H309/H29 Q18/Q16 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。



・医薬品による副作用と思われる経験が「ある」は17%で、昨年度とほぼ同様の傾向であった。

【性・年代別】

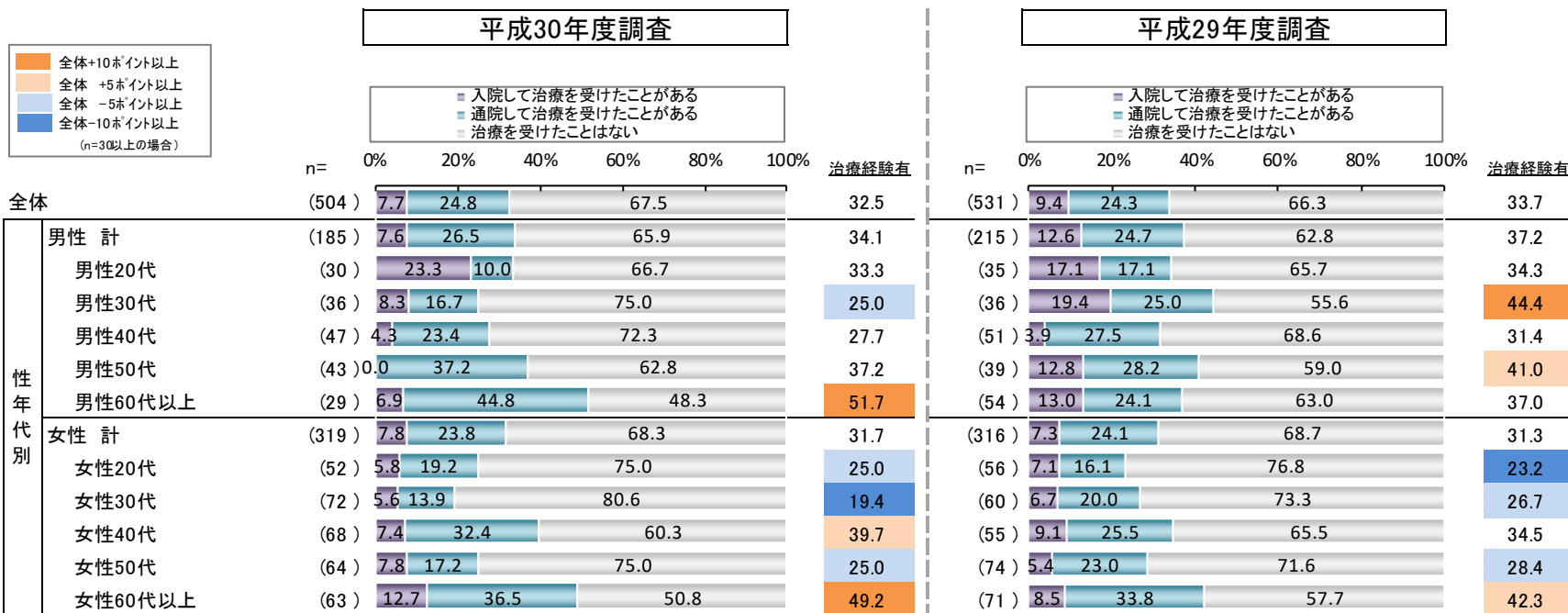
・女性の方が副作用と思われる経験があり、女性30代では24%とやや高め。

# Q19 副作用で治療を受けた経験

単一回答

H30/H29 Q19/Q17 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で副作用の治療を受けたことがありますか。

副作用経験者ベース



・医薬品による副作用経験者のうち、医療機関で医薬品による副作用の治療を受けた経験が「ある」は33%。

【性・年代別】

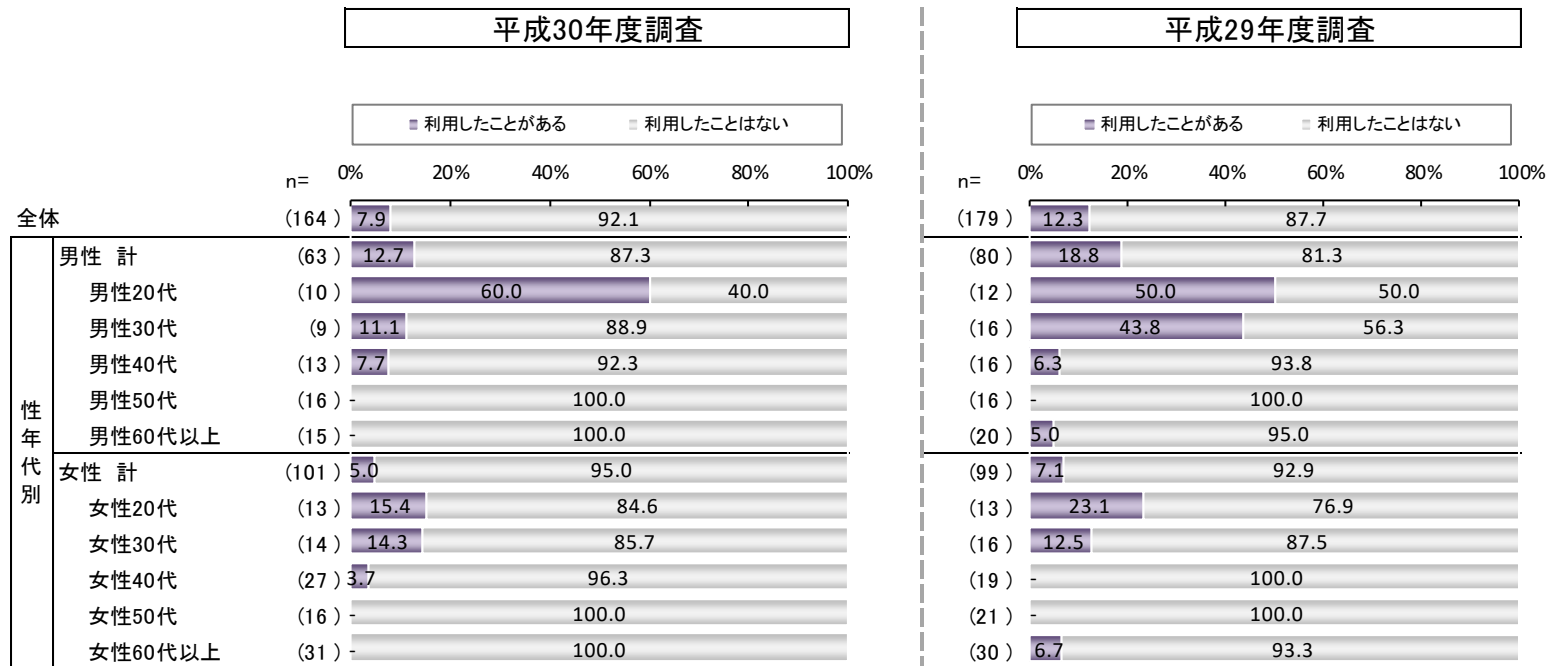
・男女の60代以上は高い。

# Q20 医薬品副作用被害救済制度を利用した経験

単一回答

H30/H29 Q20/Q18 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

副作用で入院・通院の治療経験者ベース

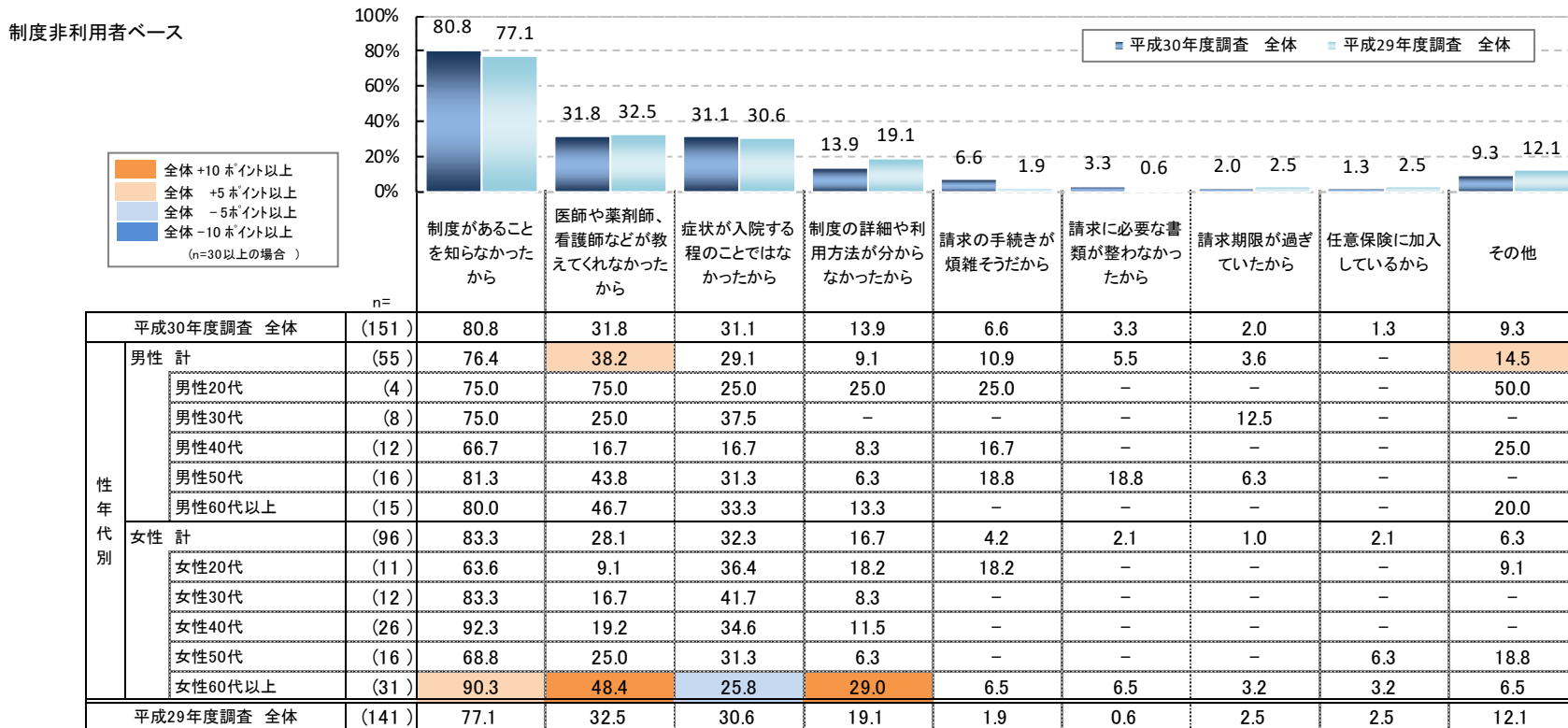


・医薬品の副作用による入院・通院の治療経験者のうち、医薬品副作用被害救済制度の利用経験は8%。

# Q21 医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由

複数回答

H30/H29 Q21/Q19 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。



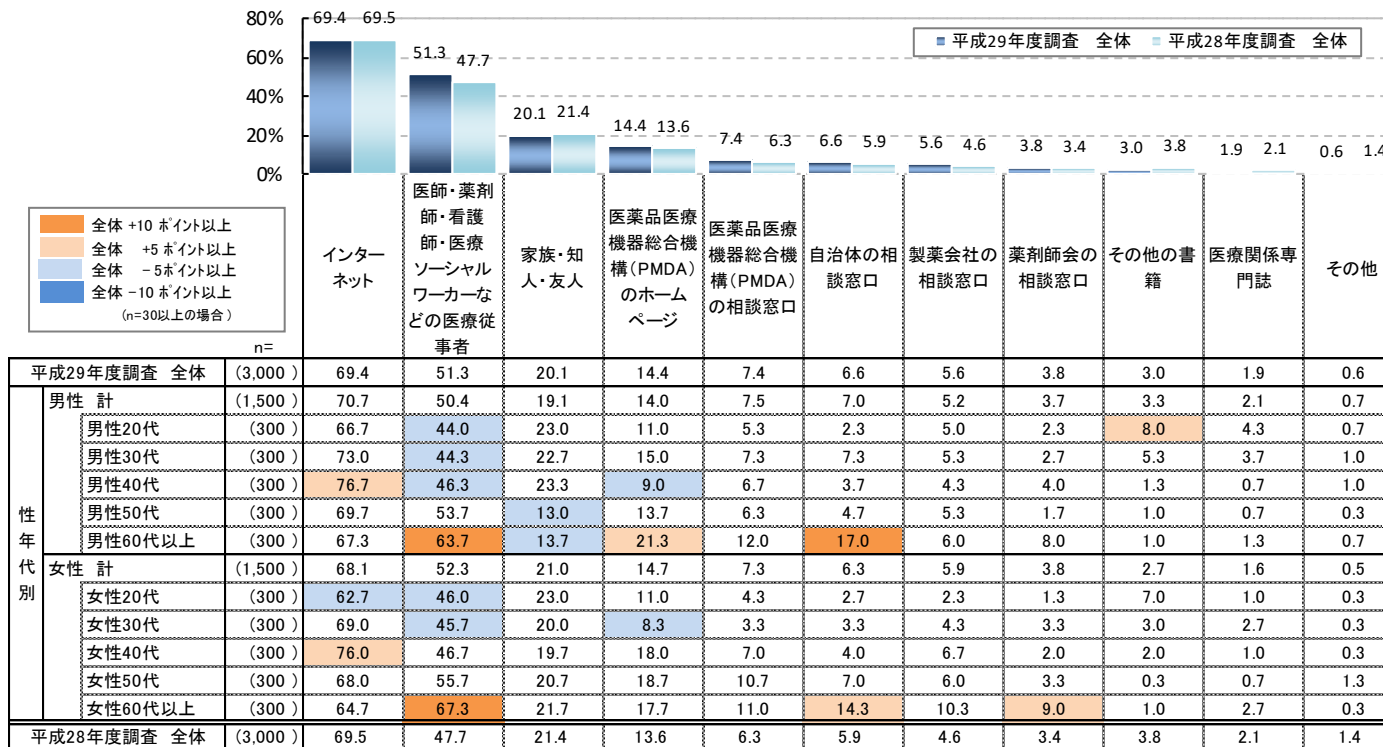
・制度を利用しなかった理由は、昨年と同様「制度があることを知らなかったから」が最も高くなっている。



# Q22 医薬品副作用被害救済制度 情報収集の方法

複数回答

H30/H29 Q22/Q20 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について詳細な情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものをすべてお選びください。



平成30年度調査全体値の降順にソート

・よく利用されている情報収集の方法として、「インターネット」69%、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」51%、「家族、知人・友人」20%が上位となっている。昨年と比較しても、いずれもほぼ同水準。

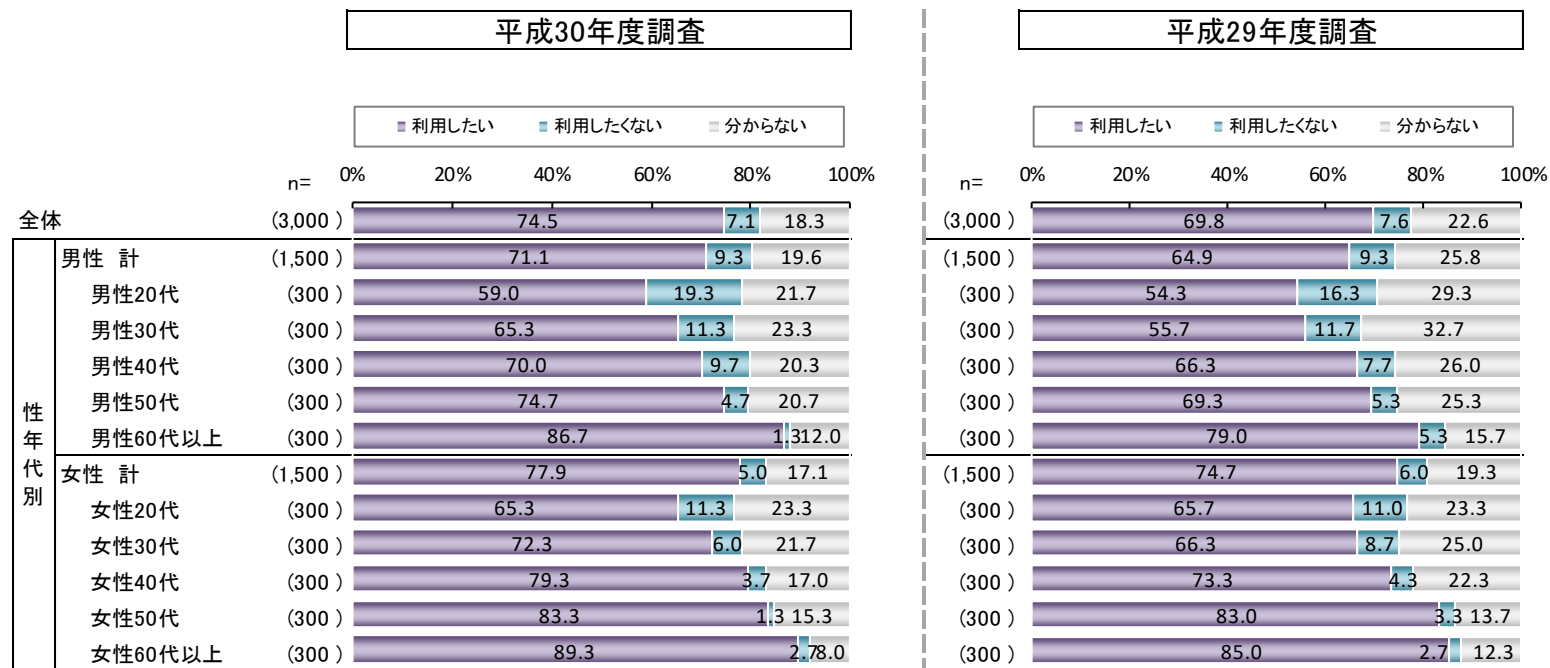
【性・年代別】

- ・高年齢層は、「医師・薬剤師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの医療従事者」が高い。
- ・60代以上では「PMDAのホームページ」、「自治体の相談窓口」が高め。

# Q23 医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向

単一回答

H30/H29 Q23/Q21 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。



今後の利用意向は75%と、昨年度より高い。

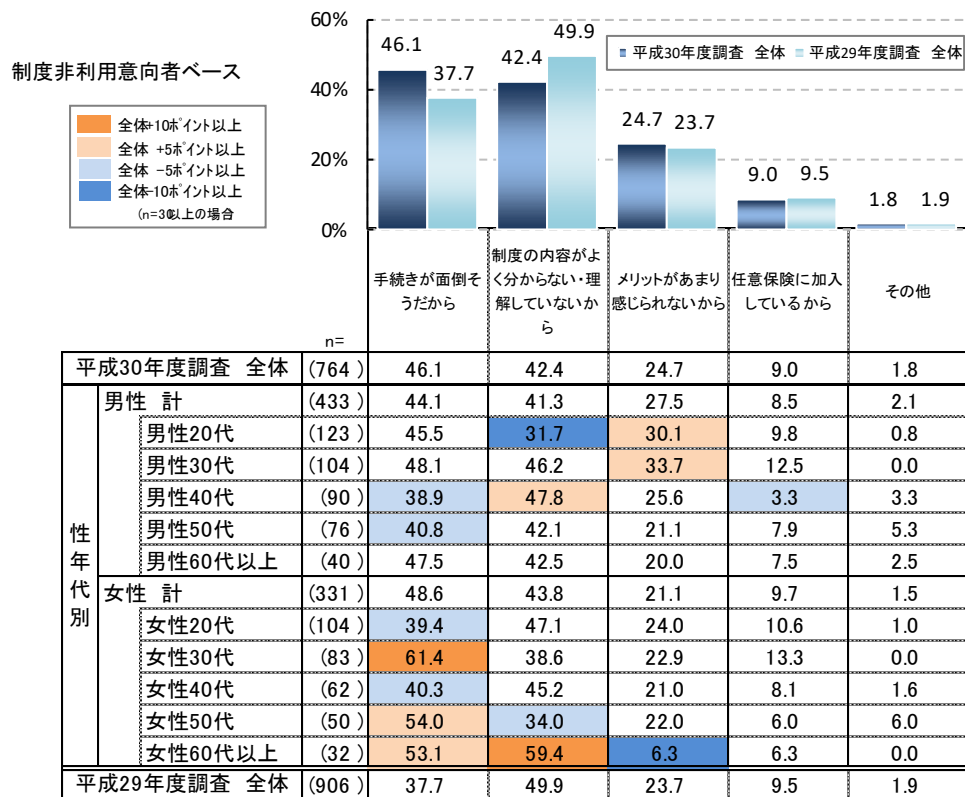
【性・年代別】

・今後の利用意向は、男性と比べて女性の方が高い。男性60代以上、女性50代以上では、利用意向は8割以上と高い。

# Q24 医薬品副作用被害救済制度 利用したくない理由

複数回答

H30/H29 Q24/Q22 今後、あなたが医薬品の重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したくない、分からないと回答されましたが、その理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。



平成30年度調査全体値の降順にソート

・制度を利用したくない理由は、「手続きが面倒そうだから」が46%。以下「制度の内容及よく分からない・理解していないから」42%、「メリットがあまり感じられないから」25%と続く。

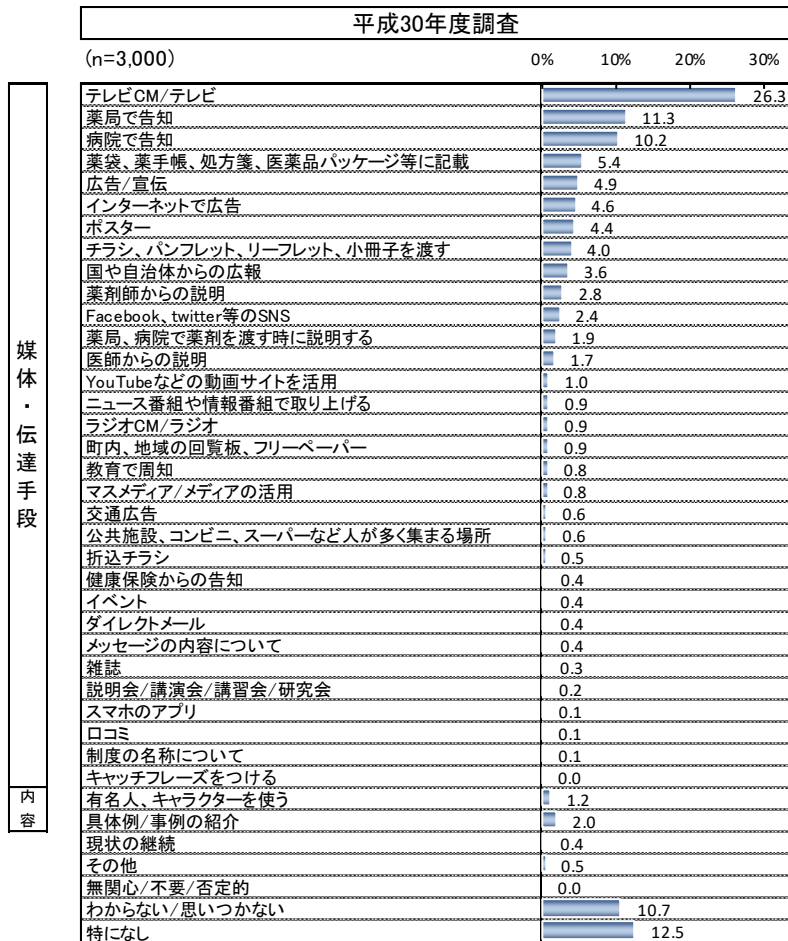
【性・年代別】

・男性40代、女性60代以上は「制度の内容及よく分からない・理解していないから」が高め。

# Q25 制度周知方法 <自由記述>

自由回答

H30/H29 Q25/Q23 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような広報が効果的だと思いますか。



・周知の手段としては、「テレビCM/テレビ」が最も高く、「薬局で告知」、「病院で告知」が続く。薬局、病院などの割合は、前回より増えた。

付録:調査票

〔平成30年度調査〕

[ 6% / 100% ]

★印の付いた質問は必須回答項目となっていますので、必ずお答えください。

★F1.  
あなたの年齢・性別を教えてください。

<年齢>

歳

<性別>

男性

女性

★F2.  
お住まいの都道府県をお選びください。(1つ選択)

▼▼▼選択して下さい▼▼▼

【 13 % / 100% 】

★Q1.

あなたは、副作用が起きたときに、医療費等の救済給付を行う「医薬品副作用被害救済制度」があることをご存じですか。(1つ選択)

- 知っている
- 聞いたことがある
- 知らない

【 16 % / 100% 】

★Q2.

あなたは、輸血用血液製剤などを介して感染などが発生した場合に、医療費等の救済給付を行う「生物由来製品感染等被害救済制度」があることをご存じですか。(1つ選択)

- 知っている
- 聞いたことがある
- 知らない

Q1で「医薬品副作用被害救済制度」を  
「知っている/聞いたことがある」  
と回答された方にお聞きします

★Q3.  
「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。(それぞれ1つずつ選択)

ココに回答→	知っている	知らない
医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>



Q1で「医薬品副作用被害救済制度」を  
「知っている/聞いたことがある」  
と回答された方にお聞きます

★Q4.  
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして（何から）知りましたか。  
または、どのようにして（何から）聞きましたか。  
あてはまるものをすべてお選びください。（複数選択可）

- インターネット（医薬品医療機器総合機構（PMDA）ホームページ）
- インターネット（バナー広告、YouTubeなどの動画サイト）
- テレビ放送
- 新聞
- ポスター
- 病院・診療所（クリニック）の院内ビジョン、薬局ビジョン
- 郵便局の窓口モニター
- コンビニATMモニター
- ファミリーレストラン（スシロー）
- 渋谷の街頭ビジョン
- 薬局でもらったリーフレット
- パンフレット・リーフレット
- 雑誌
- 医薬品の外箱・説明書
- お薬手帳・薬袋
- 聞いた／教えてもらった
- その他

Q4で「聞いた/教えてもらった」と回答された方にお聞きします

★Q5.  
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。  
あてはまるものをすべてお選びください。（複数選択可）

- 医師
- 歯科医師
- 薬剤師
- 看護師
- 医療機関の事務担当者
- 医療ソーシャルワーカー
- 自治体の職員・保健所の職員
- 弁護士
- 家族
- 知人・友人
- 医薬品医療機器総合機構（PMDA）の相談窓口
- 薬剤師会の相談窓口
- 製薬会社の相談窓口
- その他

動画1 (TVCM) をご覧になってからお答えください。

- ※この動画は音声が無音です。  
音量をONにして、音声とともにご覧ください。  
(聞き取りにくい場合は音量を大きくしてください。)
- ※ファイルを再生する準備が完了していますが、画像が表示されない場合がございます。  
画面を押して、動画を最後までご覧になってからお答えください。
- ※動画は場合によっては表示に時間がかかる場合がございます。



動画の再生が完了すると「次へ」ボタンが表示されます。

★Q6.  
あなたは、テレビでこのCMを見たことがありますか。(1つ選択)

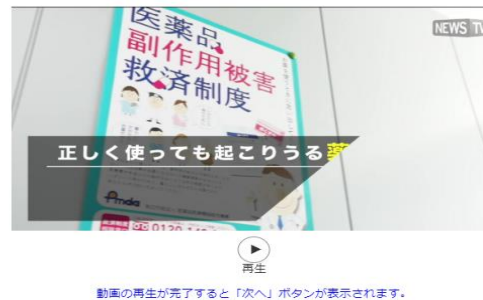
- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない
- 動画が見られない

★Q7.  
 動画（TVCM）をご覧になった感想をお聞きます。  
 以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。（それぞれ1つずつ選択）

ここに回答→	とても詳しく	詳しく	やや詳しく	さほど詳しくない
印象（記憶）に残った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
興味や関心を持った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
役に立つ情報が得られた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

動画2 (救済制度紹介動画) をご覧になってからお答えください。

- ※この動画は音声流れます。  
音量をONにして、音声とともにご覧ください。  
(聞き取りにくい場合は音量を大きくしてください。)
- ※ファイルを再生する準備が完了していますが、画像が表示されない場合がございます。  
画面を押して、動画を最後までご覧になってからお答えください。
- ※動画は場合によっては表示に時間がかかる場合がございます。



動画の再生が完了すると「次へ」ボタンが表示されます。

★Q8.  
あなたは、インターネットサイトでこの動画を見たことがありますか。(1つ選択)

- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない
- 動画が見られない

★Q9.  
 動画（救済制度紹介動画）をご覧になった感想をお聞きます。  
 以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。（それぞれ1つずつ選択）

ヨコに回答→	非常に少ない	少なすぎ	ほぼ適切な量	非常に多い
印象（記憶）に残った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
興味や関心を持った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
役に立つ情報が得られた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

画像をご覧になってからお答えください。

**医薬品  
副作用被害  
救済制度**

お薬を使うときに思い出し出してください。

副作用は、お薬の成分が体に作用して起こる場合があります。副作用は、お薬の成分が体に作用して起こる場合があります。副作用は、お薬の成分が体に作用して起こる場合があります。

お名前 \_\_\_\_\_

性別 \_\_\_\_\_

年齢 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

申請日 \_\_\_\_\_

救済制度  
相談窓口  
0120-149-931

詳しくは「副作用 救済」または「FMDA」をご覧ください。

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

★Q10.  
あなたは、これまでにこの新聞広告を見たことがありますか。(1つ選択)

- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない

付録:調査票

[ 46% / 100% ]

★Q11.  
 新聞広告をご覧になった感想をお聞きます。  
 どう思われましたか。  
 以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。(それぞれ1つずつ選択)

ココに回答→	少し興味がある	興味がある	かなり興味がある	とても興味がある
印象(記憶)に残った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
興味や関心を持った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
役に立つ情報が得られた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[ 49% / 100% ]

★Q12.  
 あなたは、これまでに薬局ビジョンや院内ビジョンで救済制度のCM(動画)を見たことがありますか。(1つ選択)

- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない





画像（救済制度特設サイトトップページ）をご覧ください。からお答えください。



★Q14.  
あなたは、これまでにインターネットで救済制度特設サイトを見たことがありますか。（1つ選択）

- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない

Q14で「救済制度特設サイト」を  
「見たことがある/見よう気がする」  
と回答された方へお聞きします

★Q15.  
救済制度特設サイトをご覧になった感想をお聞きます。  
どう思われましたか。  
以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。(それぞれ1つずつ選択)

ヨコに回答→	とても いい印象	やや いい印象	どちら もない印象	やや 悪い印象	とても 悪い印象
印象(記憶)に残った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
興味や関心を持った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
役に立つ情報が得られた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

下記の画像をご覧ください。



★Q16.

画像（リーフレット）をよくお読みになってからお答えください。

あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心が持てましたか、（1つ選択）

- 関心が持てた
- やや関心が持てた
- あまり関心が持てない
- 関心が持てない

## 付録: 調査票

[ 66 % / 100% ]

★Q17.  
テレビCM、新聞、WEB 広告、院内ビジョン、薬局ビジョン、ポスター以外で、制度認知に有効とお考えの媒体がありましたら、ご回答ください。  
※特になし場合は「特になし」とお書きください。

[ 69 % / 100% ]

★Q18.  
あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。 (1つ選択)

- 経験がある  
 経験はない  
 分からない

[ 73 % / 100% ]

Q18で「経験がある」と回答された方にお聞きます

★Q19.  
あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で副作用の治療を受けたことがありますか。 (1つ選択)

- 入院して治療を受けたことがある  
 通院して治療を受けたことがある  
 治療を受けたことはない

[ 76 % / 100% ]

Q19で「入院して治療を受けたことがある/通院して治療を受けたことがある」と回答された方にお聞きします

★Q20.  
あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。(1つ選択)

- 利用したことがある
- 利用したことはない

[ 79 % / 100% ]

Q20で「利用したことはない」と回答された方にお聞きします

★Q21.  
あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。(複数選択可)

- 制度があることを知らなかったから
- 制度の詳細や利用方法が分からなかったから
- 医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから
- 症状が入院する程のことではなかったから
- 請求期限が過ぎていたから
- 請求の手続きが煩雑そうだから
- 請求に必要な書類が整わなかったから
- 任意保険に加入しているから
- その他

## 付録:調査票

[ 83 % / 100% ]

★Q22.  
あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について詳細な情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。  
あてはまるものをすべてお選びください。(複数選択可)

- 医師・薬剤師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの医療従事者
- 家族・知人・友人
- インターネット
- 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のホームページ
- 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の相談窓口
- 製薬会社の相談窓口
- 自治体の相談窓口
- 薬剤師会の相談窓口
- 医療関係専門誌
- その他の書籍
- その他

[ 86 % / 100% ]

★Q23.  
「医薬品副作用被害救済制度」は、病院・診療所（クリニック）で処方された医薬品や薬局などで購入した医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害を受けた方に対して、救済給付を行う公的な制度です。  
今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。(1つ選択)

- 利用したい
- 利用したくない
- 分からない

Q23で「利用したくない/分からない」と回答された方にお聞きします

★Q24.  
今後、あなたが医薬品の重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」の利用について「利用したくない/分からない」と回答されましたが、その理由は何ですか。  
あてはまるものをすべてお選びください。(複数選択可)

- 制度の内容及く分からない・理解していないから
- 手続きが面倒そうだから
- 任意保険に加入しているから
- メリットがあまり感じられないから
- その他

★Q25.  
「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様を知っていただくためには、どのような広報が効果的だと思いますか。



★Q26.  
下記は本アンケートで扱った制度に関する説明文です。  
ご意見等ありましたら自由にご回答ください。  
※特になし場合は「特になし」とお書きください。

#### 医薬品副作用被害救済制度

昭和55年5月1日以降に使用した医薬品（病院・診療所で処方されたもの他、薬局で購入したものも含みます。）を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により、入院治療を必要とする程度の疾病や障害などの健康被害が生じた場合に、医療費、医療手当、障害年金などの給付を行う制度です（再生医療等製品については、平成26年11月25日以降より適用）。

#### 生物由来製品感染等被害救済制度

平成16年4月1日以降に使用した生物由来製品（輸血用血液製剤、ブタ心臓弁など）を適正に使用したにもかかわらず、その製品を介して感染症にかかり、入院治療を必要とする程度の疾病や障害などの健康被害が生じた場合に、医療費、医療手当、障害年金などの給付を行う制度です（再生医療等製品については、平成26年11月25日以降より適用）。

救済給付の請求にあたっては、請求区分に応じた請求書、診断書、受診証明書、投薬証明書などの書類が必要となりますので、事前に必要書類を機構の「救済制度相談窓口」にお問い合わせください。ホームページにも救済制度の説明や請求書類などのダウンロードサイトを設けていますので、併せてご覧ください。

なお、救済制度のリーフレットやQ&A等の広報資料を無償で配布しておりますので、フリーダイヤルまでご連絡いただければお送りします。

PMDA 独立行政法人医薬品医療機器総合機構  
【救済制度相談窓口】  
フリーダイヤル：0120-149-931  
受付時間：9時～17時（土日祝日、年末年始を除く）  
ホームページ：http://www.pmda.go.jp  
特設サイト：http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai\_camp/index.html

ご回答ありがとうございました。

アンケートにご回答いただき誠にありがとうございました。

最後にこの画面を閉じてアンケートを終了してください。

今後ともよろしく申し上げます。